651-32
1200501569965
651
32

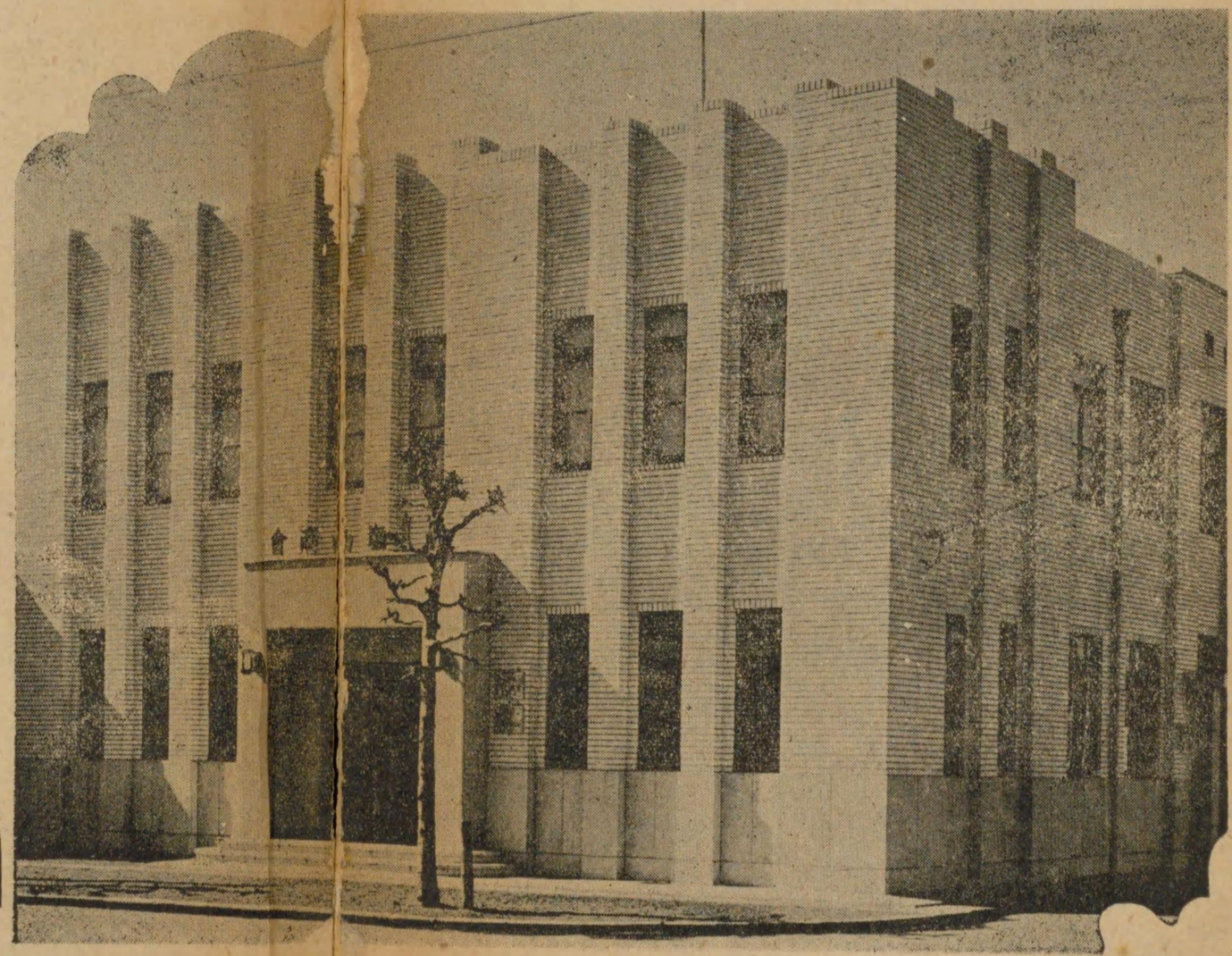
鑑年河駿

昭和十八年版

附錄　二十年後の大清水

SURUGA ALMANAC

2603



塩山汽船株式會社

塩山海運株式會社
塩山土地建物有限會社
用宗遠洋漁業株式會社
駿河商船株式會社

取締役社長　塩次鈇雄

静岡縣清水市

電話　一二〇九番
　　一三一七番
　　一二五八番

651
32

駿河年鑑

昭和十八年度版

(2603)

みなと出版社

昭和十七・十二・二十 帝國圖書館

資本金三百萬圓

靜岡縣罐詰株式會社

清水市築地町二ノ一一
電話五四五・六五〇番

取締役社長　植田朋八
常務取締役　井出久七
同　柴野清一
同　村上芳雄
取締役　鈴木與平
同　櫻田與市

取締役　山本良作
同　原臺吉
同　望月久也
監査役　小林彥太郎
同　山梨幸一郎
同　佐藤覺次郎

必係不敗

昭和十七年初夏

清水市長當麻勝巳

651
32

陣頭指揮

一、人類の敵　米英に
城下の誓ひ　させるまで
進め一億　火と燃えて
見よ、大將の　軍服で
總力戰の　陣頭に
東條さんが　總指揮だ

二、黑い山底　千尺に
鶴嘴ふるふ　增產の
戰果は今日も　大きいぞ
見よ、戰士らに、交り立ち
資源戰の　陣頭に
重役さんの　總指揮だ。

三、力と賴んだ　若者を
戰さの庭へ　捧げたが
村の守りは　鐵壁だ
見よ、豐年の野良に立ち
收穫戰の　陣頭に
老村長の　總指揮だ。

四、世界の人に　見はらせた
皇軍不滅の　武力戰
應へる銃後の　增產戰。
いま總力の　決戰だ。
陣頭指揮の　隊長に
續いてみんな　突擊だ。

（東日より）

清水警察署管内經濟統制連絡會

一般の部

▽一等　（新富町　中村吉郎）
笑顔で配給　感謝で消費
▽二等　（矢倉町　上池正次）
親切で貫く店に凱歌あり
▽二等　（入江岡　矢崎喜三郎）
㊙は銃後を守る大鼓判
▽三等　（入船町　安本欽一）
先づ㊙で御奉公

▽三等　（入江二　本田迪夫）
忠魂に誓つて守れ公定價
▽三等　（鍛冶町　池上英太郎）
仰げ聖恩感謝の生活
▽三等　（署内　佐野國一郎）
護れ銃後と公定價格
▽三等　（仲濱町　若林美江子）
客も賣手も笑顔でゆかう

懸賞標語入選者

一般應募二七六。學生應募七九二合計一〇六八點中嚴選の結果表の如く入選者を決定し十一月十日清水署に於て授賞式を擧行した。

審査員

學校の部

▽一等　（清商　庄司善一）
守る㊙手近な奉公
▽二等　（忠愛　岡村芳輔）
正しい取引勝利の一歩
▽二等　（清高女　福島多喜子）
日の丸に恥ぢぬ賣買致しませう
▽三等　（清商　井柳惠一）
笑顔で賣つて笑顔で買はう

▽三等　（清高女　吉川美津）
顔で賣買止めませう
▽三等　（清商　酒井勇吉）
一に㊙二に笑顔三に感謝で賣りませう
▽三等　（清商　細野金一郎）
正しい商人お國の寶
▽三等　（忠愛　若杉愛子）
守る公定國護る

清水市民税番附

個人

横綱	一、五〇〇円	鈴木與平
大關	一、〇五五	後藤磯吉
關脇	一、〇一三	伊藤福太郎
小結	五八四	山梨謙藏
前頭	五四八	芝野榮七
同	四〇二	望月治作
同	三五六	長澤重兵衞
同	三五一	鹽次鐵雄
同	三三一	佐藤つや
前頭	三四	眞鐵太郎
同	三〇九	鈴木平六
同	二三八	板倉正雄
同	二三〇	長島銀藏
同	二二七	望月貞策
同	一八八	福島庄太郎
同	一八一	長坂光夫
同	一七九	增田鱗三
同	一七二	相山精一
前頭	一五九	畠山慶吉
同	一五八	中村藤太郎
同	一五三	櫻田與市
同	一四七	渡邊銀作
同	一四五	岡田大三
同	一三八	竹內理吉
同	一三八	柴田準藏

（最高額以下二十五位迄）

蒙御免

清水市昭和十七年度市民税總額は納税人員一萬四千五百七人、税額九萬一千三百二十七圓九十四錢で主なる納税者は表の如くである

法人

横綱	一、五〇〇円	日輕清水工場
大關	一、五〇〇	豐年製油
關脇	一、五〇〇	鈴與商店
小結	一、一五三	關東配電
前頭	一、〇〇〇	東洋製罐
同	九一四	巴川製紙
同	七八三	清水食品
同	五九九	天龍製材
同	五三六	靜岡三五銀行
前頭	五一六	清水魚市場
同	五〇七	縣購聯
同	三五四	ヤマト商事
同	三四六	清水運送
同	三四〇	大阪石綿
同	三三八	日本發送電
同	三二七	清水倉庫
同	三二二	鈴與倉庫
同	三〇九	鹽山汽船
前頭	三〇八	三五江尻支店
同	二六二	港灣運送
同	二五〇	清水港木材
同	二二一	清水水產
同	二一七	東海遠洋
同	二一三	大力製材
同	二一一	金指造船

（最高額以下二十五位迄）

勸進元

清水市役所税務課

目次

題字……清水市長　山田勝四郎
陣頭指揮の歌
經濟統制標語
靜清工業用水使用條例……一
清水港營造物條例……六
同　施行細則……九
清水港取締規則……一五
清水市役所……二〇
各種公共團體……二六
清水商工會議所……三九
官公署……四一
學事……四九
回漕……五五
倉庫……六六
運輸……六七
交通……七一
木材……七三
罐詰……七六
柑橘青果……八〇
水産……八一
貿易……八二
鐵工機械……八三
造船……八七
石炭燃料……九〇
米肥飼料……九二
農事園藝……九三
銀行……九四
保健厚生……九九
産業組合……一〇三
其他商工業組合……一〇四
旅館料理貸座敷……一〇五
土木建築……一〇六
特殊會社工場……一〇八
庵原郡……一一四
昭和十七年度行事……一二一

清水港關係法規

清水港關係規程

靜岡縣靜清工業用水道使用條例

昭和十六年一月二十五日縣條例第一號

第一章　總　則

第一條　本水道ハ工業用水トシテ一箇月一萬立方米以上ヲ使用スルモノニ給水ス

第二條　給水ハ計量法ニ依ル　但シ消火用ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條　私設消火栓ハ火災又ハ消火演習ノ場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第四條　本條例ニ於テ給水裝置ト稱スルハ配水管ヨリ分岐スル給水管及給水用具ヲ謂ヒ未裝置トハ給水裝置ノ內量水器以下ノ施設ヲ謂フ

第五條　給水裝置ハ工場所有者ニ非サレバ之ガ設置ヲ申請シ又ハ所有スルコトヲ得ズ

第六條　工場ヲ廢止シ又ハ讓渡シタルトキハ給水ハ之ヲ廢止ス

但シ讓受人ニ於テ給水ヲ繼承セムトスルトキハ出願ニヨリ調査ノ上給水スルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ屆出ヅベシ

第七條　天災事變其ノ他已ムヲ得ザル場合ニ於テハ給水ヲ制限シ又ハ停止スルコトアルベシ

前項ノ制限又ハ停止ヲ爲サムトスルトキハ急迫ノ事情アル場合ノ外豫メ其ノ日時區域及原因ヲ告知ス

第一項ノ制限又ハ停止ニ因リ生ジタル損害ニ對シテハ縣ハ賠償ノ責ニ任ゼズ

第八條　水道使用者ハ給水ヲ其ノ目的外ニ使用シ又ハ之ヲ他人ニ貸與若ハ販賣スルコトヲ得ズ

但シ特ニ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　給水裝置所有者裝置所在市町村內ニ居住セザルトキハ本條例ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲同市町內ニ居住スル管理者ヲ選定シ屆出ヅベシ

縣ニ於テ管理者ヲ不適任ト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトアルベシ

第二章　給水工事及工費

第十條　給水裝置(管未裝置ヲ除ク)ノ新設、增設、改造、修繕、撤去其ノ他ノ工事ハ請求ニヨリ縣ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ請求者ノ負擔トス

給水裝置ノ新設又ハ增設ヲ受ケムトスル者ハ一秒時間ノ最大使用水量ヲ具シ之ヲ出願スベシ

管未裝置及消火栓ノ工事ハ給水ヲ受クル者ニ於テ豫メ設計ヲ具シ知事ノ承認ヲ經之ヲ施行スベシ

量水器ハ給水ヲ受クル者ニ於テ購入シ縣ノ檢査ヲ受ケ之ヲ取付クベシ

第一項ノ設計及前項ノ檢査ヲ爲シタル場合ニ於テハ手數料ヲ徵收ス

第十一條　給水ニ餘裕ナキトキ又ハ知事ニ於テ支障アリト認メタルトキハ給水裝置ノ申請ニ應ゼザルコトアルベシ

第十二條　知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ請求ヲ俟タズ給水裝置ノ檢査加工又ハ變更ヲナスコトアルベシ

前項ノ工費ハ給水裝置所有者ノ負擔トス但シ事情ニヨリ之ヲ減免スルコトアルベシ

第十三條　他人ノ給水裝置ヨリ給水管ヲ分岐シ給水ヲ受ケムトスルモノハ使用者ノ承諾書ヲ添附シ知事ノ許可ヲ受クベシ

第三章　給水

第十四條　給水ヲ受ケムトスルモノハ一秒時間ノ最大使用水量及一箇月ノ責任使用水量ヲ具シ申請スベシ責任使用水量ノ增減及給水ノ繼承ヲ爲サムトスルトキ亦同ジ

第十五條　給水ヲ廢止又ハ休止セムトスルトキハ其ノ前日迄ニ屆出ヅベシ

第十六條　縣係員ハ量水器ヲ檢査スル每ニ點檢帳及點檢證ニ消費水量ヲ記入シ使用者ニ交付ス

第十七條　水道使用者ハ給水裝置ニ故障アリタルトキハ速ニ屆出ヅベシ

第十八條　給水裝置ヨリ分岐使用者アル場合所有者給水裝置ヲ撤去シ又ハ水道ノ使用ヲ廢止セムトスルトキハ分岐使用者ニ其ノ旨通知スベシ

前項ノ場合ニ於テ分岐引用者第十條ニ依ル請求ヲ爲サザルトキハ水道ノ使用ヲ廢止シタルモノト看做ス

第四章　使用料及手數料

第十九條　水道使用料ハ使用者ヨリ之ヲ徴收ス

給水裝置所有者又ハ管理者ハ使用料納付ニ付使用者ト連帶シテ其ノ責ニ任ズルモノトス

第二十條　使用料ハ左ノ區別ニ依ル但シ責任使用水量ニ付テハ使用ノ有無ニ拘ラズ其ノ定額ニヨリ使用料ヲ徴收ス

一、責任使用料　責任使用水量一立方米ニ付金二錢五厘

二、超過使用料　責任使用水量ヲ超過シタル水量一立方米ニ付金二錢八厘

三、私設消火栓使用料　演習用一口一回ニ付金一圓

前項ノ場合ニ於テ給水開始ノ月ガ一ケ月ニ滿タザルトキハ日割ヲ以テ責任使用水量ヲ定メ廢止禁止、停止及責任使用水量變更ニ依ル場合亦同ジ

量水器ヨリ流末ニ設置シアル消火栓ヲ火災ニ使用シタルトキハ其ノ消費水水量ヲ認定シテ其ノ月ノ總使用水量ヨリ之ヲ控除ス但シ其ノ月ノ責任使用水量ヲ超過セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　使用料ハ毎月量水器ヲ點檢シ其ノ使用水量ニ依リ翌月十五日迄ニ之ヲ徴收ス但シ消火演習ノ爲私設消火栓ヲ使用シタルトキ並ニ給水ヲ廢止、休止又ハ停止シタル場合ニ於テハ隨時之ヲ徴收スルコトアルベシ

第二十二條　消火演習ノ爲私設消火栓ヲ使用セムトスルトキハ前日迄ニ承認申請ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ縣係員立會ノ許ニ之ヲ行ヒ使用時間ハ一口一回十分以上ニ亘ルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テハ消火演習終了後直ニ使用料ヲ納付スベシ但シ量水器ヨリ流末ニ設置シアルモノニ付テハ其ノ月ノ責任使用水量ニ達セザルトキハ之ヲ徴收セズ

第二十三條　火災ノ爲私設消火栓ヲ使用シタルトキハ直ニ屆出ヅベシ

第二十四條　給水裝置ニ異狀アリタルトキハ縣ニ於テ其ノ使用水量ヲ認定ス此ノ認定ニ對シテハ使用者ニ於テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十五條　使用料ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ減免セズ

一、給水ノ廢止又ハ休止ノ屆出ヲナサザルトキ

二、第十七條及第十八條ノ規定ニヨリ給水ヲ停止シタルトキ

第二十六條　手數料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

一、工事設計手數料　一件ニ付金二十圓以內

二、量水器試驗手數料　一箇ニ付金五十圓以內

第五章　違反處分

第二十一條　左ノ各項ノ一ニ該當スルトキハ拾圓以下ノ科料ニ處シ且三十日以內ニ於テ給水ヲ停止ス

一、給水裝置ニ加工シ其ノ他不正ノ方法ヲ以テ水道ヲ使用シタルトキ

二、承認ヲ經ズシテ工業用水以外ノ用途ニ供シ又ハ他ニ分與若ハ販賣シタルトキ

三、故ナク水道係員ノ調査ヲ拒ミ其ノ他職務執行ヲ妨ゲタルトキ

四、承認ヲ經ズシテ給水裝置ノ增設變更其ノ他ノ工事ヲ爲シタルトキ

五、前各號ノ外本條例ニ基キテ規定シタル事項ニ違背シタルトキ

前項第一號第二號及第五號ニ該當スル場合ニ於テモ逋脱使用料之ヲ追徵ス

第二十八條　使用料、手數料其ノ他ノ諸費用ヲ指定期限内ニ納付セザルトキハ納付期限ノ翌日ヨリ納付ノ前日マデ百圓ニ付一日金三錢ノ割合ヲ以テ延滯金ヲ徵ス

尙此ノ場合ニ於テハ完納ニ至ル迄ノ間給水ヲ停止スルコトアルベシ

第二十九條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ知事之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

靜岡縣條例第一號

縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ認可ヲ經テ清水港營造物條例左ノ通改正ス

昭和十二年四月十日

靜岡縣知事　齋藤　樹

清水港營造物條例

第一條　本條例ニ於テ營造物ト稱スルハ繫船岸壁、繫船棧橋上屋及筏繫留柵ヲ謂フ

第二條　營造物ヲ使用セムトスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　營造物ノ使用ニ付テハ使用者ヨリ左ノ各號ニ依リ使用料ヲ徵收ス

一　繫船岸壁繫船棧橋使用料

一　登簿噸數百噸未滿ノ船舶　繫船時間二十四時間ニ付　金五圓

一　同百噸以上千噸未滿ノ船舶　同　金拾圓

一　同千噸以上二千噸未滿ノ船舶　同　金拾五舶

一　同二千噸以上三千噸未滿船舶　同　金貳拾圓

一　同三千噸以上四千噸未滿ノ船舶　同　金貳拾五圓

一　同四千噸千上五千噸未滿ノ船舶　同　金參拾圓

一　同五千噸以上ノ以舶　同　金參拾五圓

繫留時間二十四時間未滿ノ端數ハ二十四時間トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ積石十石ヲ以テ壹噸ト換算シ十石未滿ノ端數ハ十石トシテ計算ス

二　上屋使用料

一　壹坪壹日ニ付　金拾錢以内

壹坪未滿又ハ壹日未滿ノ端數ハ各壹坪又ハ壹日トシテ計算ス

三　筏繫留柵使用料

一　片側壹坪壹ケ月ニ付　金七拾五錢以内

一　片側壹間半ケ月ニ付　金參拾七錢五厘以内

十五日未滿ハ半ケ月トシ壹間未滿又ハ十五日以上壹ケ月未滿ノ端數ハ各壹間又ハ壹ケ月トシテ計算ス

第四條　左ノ各號ニ掲クル船舶ノ繫留岸壁繫船棧橋使用料ハ之ヲ免除ス

一　軍事用ノ艦船又ハ官公署用ノ船舶

二　登簿噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ船舶

三　其ノ他知事ニ於テ特別ノ事由アリト認ムル船舶

第五條　使用者營造物ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ者ヲシテ之ヲ原形ニ復セシメ又ハ其ノ費用ノ賠償ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第六條　使用者使用期間滿了ニ至リ正當ノ理由ナクシテ其ノ使用ヲ止メサルトキハ知事ニ於テ相當處理シ使用者ヲシテ之カ費用ノ負擔ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第七條　繫留中ノ船舶及浮筏並ニ上屋藏置中ノ貨物ニ損害ヲ生スルコトアルモ縣ハ之カ賠償ノ責ニ任セス

第八條　營造物ノ管理並ニ使用料ノ徵收ニ必要ナル細則ハ知事之ヲ定ム

附則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

靜岡縣知事　齋藤樹

靜岡縣規則第一號

清水港營造物條例施行細則左ノ通改正ス

昭和十二年四月十日

清水港營造物條例施行細則

第一條　清水港ニ於ケル營造物ノ管理及使用料徵收ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本則ニ據ル

第二條　營造物ヲ使用セムトスル者ハ左ノ各號書式ニ依ル願書ヲ清水港務所ニ差出スヘシ許可期間滿了後尙引續キ使用セムトスルトキ亦同シ

繫船岸壁繫船棧橋使用　第一號書式

上屋使用　第二號書式

筏繫留柵使用　第三號書式

第三條　營造物使用ノ許可ヲ受ケタルトキハ同時ニ所定ノ使用料ヲ納付スヘシ

第四條　營造物使用ニ關シテハ總テ當該官吏吏員ノ指揮ニ從フヘシ

第五條　上屋ニ收容スル貨物ハ本船積卸ノモノニ限ル但シ特ニ閑散ナル時期ニ於テハ此ノ限ニアラス

第六條　鐵材材木其ノ他重要品若ハ石炭砂利砂等飛散シ易キ物品ノ荷役ヲ爲ストキハ繫船岸壁及上屋ヲ毀損シ又ハ物品ヲ水中ニ轉落セシメサル樣豫メ相當ノ裝置ヲ爲スヘシ

第七條　左ニ掲クル貨物ハ繫船岸壁ニ於テ陸揚又ハ船積ヲ爲シ上屋ニ收容シ若ハ筏繫柵ニ繫留スルコトヲ得ス但シ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　劇藥毒藥及爆發シ易キモノ

一　他ノ貨物ヲ汚損スヘキ虞アルモノ

一　當該官吏吏員ニ於テ陸揚若ハ船積スヘカラスト認ムルモノ

第八條　清水港營造物條例及本則ニ違反シタルトキ又ハ清水港務所長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ許可ヲ取消シ若ハ使用ヲ停止シ又ハ使用場所ノ變更其ノ他臨機ノ措置ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ之カ爲ニ損害ヲ受クルコトアルモ其ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第九條　二人以上共同シテ許可ヲ受ケタルトキハ連帶責任ヲ以テ本則及許可ニ附シタル條件ニ依テ生スル一切ノ義務ヲ負擔スヘシ

第十條　營造物使用中願書記載ノ事項ニ變更ヲ要スルモノアル場合ハ其ノ旨申出テ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合使用料增額スルトキハ同時ニ其ノ增加額ヲ追納スヘシ

第十一條　上屋ハ專用ノ場合ハ三ケ月間其ノ他ノ場合ハ三週間以上使用スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アリト認メタル場合ハ更ニ繼續使用ヲ爲スコトヲ得

第十二條　營造物使用者ニシテ貨物ヲ搬入シタルトキ又ハ組筏及竹木ヲ繫留シタルトキハ適當ノ箇所ニ其ノ要領氏名ヲ明記シタル目標ヲ附スヘシ

第十三條　營造物使用者ニシテ物件ヲ搬出セムトスルトキハ貨物ハ第四號書式、組筏及竹木ハ第五號書式ノ搬出屆書ヲ清水港務所ニ差出シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第十四條　營造物使用上必要ノ物件ハ使用者之ヲ自辨スヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年四月靜岡縣令第四十五號清水港繫留岸壁上屋管理規則施行細則ヘ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式

繫船岸壁繫船棧橋使用願

一、船　名

一、總噸數及登籍噸數

一、繫留場所　清水港岸壁　清水港棧橋

一、繫留期間　自　月　日午　時　分　至　月　日午　時　分

一、繫船料　金

右御許可相成度候也

昭和　年　月　日

住所
使用人

清水港務所御中

第二號書式

上屋使用願

上屋番號　第　番第　號　使用坪數　坪

使用日數　自　月　日　至　月　日　日間　輸移出入別

收容貨物種類及數量

品名	個數	噸數	品名	個數	噸數
合計					

右許可相成度候也

昭和　年　月　日

清水港務所御中

住所

使用人

第三號書式

筏繫留柵使用願

貯木場所在地　清水港折戸灣內貯木場

箇所及間數　第　號　側　間

同　第　號　側　間

同　第　號　側　間

計　間

使用料　金

使用期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日　日間

右許可相成度候也

昭和　年　月　日

住所

使用人

清水港務所御中

第四號書式

上屋貨物搬出屆

上屋番號　第　番第　號　搬出坪數　使用坪數　坪ノ內　坪

搬出月日　月　日　搬出終了月日　月　日

搬出貨物種類及數量

品名	個數	噸數	品名	個數	噸數

右搬出致候ニ付御承認相成度候也

昭和　年　月　日

住所
使用人

清水港務所御中

第五號書式

繫留筏搬出屆

繫留個所及間數　第　號　側　間

搬出數　側　間

搬出月日　昭和　年　月　日

右之通搬出致候條御承認相成度此段及御屆候也

昭和　年　月　日

住所
使用人

清水港務所御中

昭和三年一月一日ヨリ實施
昭和六年四月十四日改正縣令第十六號

清水港取締規則

第一條　清水港ハ清水市三保眞崎ヨリ眞北ニ引キタル直線ヲ以テ其ノ港界トス

第二條　總噸數二百噸以上ノ船舶ハ着港後二十四時間以内ニ樣式第一號ニ依ル着港屆及船員名簿ノ寫ヲ清水水上警察署長(以下水上署長ト謂フ)ニ提出スヘシ

第三條　前條ニ規定スル船舶出港セムトスルトキハ樣式第二號ニ依ル出港屆ヲ水上署長ニ提出シ出帆旗ヲ揭揚スヘシ

定期航路ノ船舶ハ本條及前條ニ規定スル屆出事項ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第四條　總噸數五百噸以上ノ船舶ハ雙錨ヲ投シテ碇泊スヘシ但シ卽日出港スルモノハ此ノ限ニアラス

第五條　水上署長ハ碇泊所ノ狀況又ハ積載貨物ノ種類ニ依リ必要アリト認ムルトキハ船舶ニ對シ碇泊所ノ位置ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第六條　港内ニ碇泊シ又ハ航行スル船舶ハ日沒ヨリ日出迄ノ間ハ海上衝突豫防法ニ依ル船燈ヲ揭クヘシ

第七條　船舶火ヲ失シタルトキハ救援ノ至ル迄船鐘ヲ打鳴シ日出ヨリ日沒ノ間ハNMノ信號ヲ揭揚シ日沒ヨリ日出ノ間ハ紅燈ヲ上下スヘシ

船舶警察官吏ノ臨船ヲ求メムトスルトキハ日出ヨリ日沒ノ間ハGノ信號ヲ揭揚シ日沒ヨリ日出ノ間ハ藍火又ハ閃火ヲ示スヘシ

第八條　曳船ハ艀船端舟ハ四隻其ノ他ノ船舶ハ一隻組筏ハ三枚二列以上曳船スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ依リ水上署長ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス夜間ハ被曳船又ハ組筏毎ニ燈火又ハ籌火ヲ揭クヘシ

第九條　水上ニ荷卸シタル竹木ハ長サ三十メートル幅四メートル以内ノ組筏ト爲スニ非サレハ繫留又ハ運搬スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ依ル水上署長ノ許可ヲ受ケタルモノ此ノ限ニアラス

前項ノ組筏ニハ見易キ箇所ニ所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ記シタル標札ヲ附着スヘシ組筏及竹木ハ法令ノ規定ニ依ルモノノ外知事ノ指定シタル貯木場以外ニ繫留又ハ貯木スルコトヲ得ス

但シ水上署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラス

前項但書ノ願書ハ清水港務所長經由之ヲ爲スヘシ

第十條　組筏ヲ繫留シ又ハ夜間運搬ヲ爲サムトスル者ハ住所氏名場所期間及數量ヲ具シ水上署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　組筏ノ繫留ニハ强靱ナル繫繩ヲ用ヒ天候不穩ノ虞アルトキハ特ニ番人ヲ置キ竹木ノ散逸ヲ防クヘシ

第十二條　港界内ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一、標識、浮標、立標、量水標、橋梁、堤塘、護岸、突堤ニ船舶又ハ組筏ノ類ヲ筏留シ若ハ繫船浮標、繫船岸壁ニ組筏ノ類ヲ繫留スルコト

二、巴川口附近ニ濫ニ船舶ヲ碇泊セシメ又ハ船舶筏ノ類ヲ繫留スルコト

三、荷足、灰燼、塵芥、瓦石等ヲ投棄スルコト

四、突堤、堤塘、護岸、繫船岸壁ニ附着スル芥藻ノ類ヲ採取スルコト

第十三條　左ノ各號ニ該當スル行爲ヲ爲サムトスルトキハ主催者ノ住所氏名、日時、場所ヲ記シ水上署ニ屆出ツヘ

一　短艇競走又ハ水泳競技ヲ爲スコト

二　船行列ヲ爲スコト

三　日本形二百石積以上西洋形二十噸以上ノ船舶ヲ進水セムトスルトキ

第十四條　水上署長ハ難破物又ハ沈沒品ニシテ船舶航行ノ妨害トナルヘキモノハ其ノ所有者又ハ管理者ニ對シ之ガ除去其他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

潛水器其ノ他ノ機械類ヲ使用シ難破物又ハ沈沒品ノ引揚ヲ爲サムトスル者ハ住所氏名場所日時及引揚物件ノ種類ヲ具シ水上署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條　水上署長ハ船長又ハ物件ノ所有者若ハ管理者ニ對シ危害豫防其ノ他取締上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第二條第三條第一項第四條第六條第八條乃至第十條第十二條第十三條第十四條第二項ニ違反シタル者

二　第五條第十四條第一項第十五條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタル者

附　則

本則ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式第一號

入　港　届

一、船　種　船　名　汽船

一、船　主

一、國　籍

丸

一、船　籍　港　名

一、總　噸　數

一、登　簿　噸　數

一、發航地名及發航年月日

一、寄　港　地

一、船　員　數

一、當港揚荷品名及數量

右及御届候也

年　月　日　船長

清水水上警察署御中

様式第二號

出　港　届

一、船　名

一、行　先　地　名

一、出　發年月日時

一、當港積荷種類及數量

右及得届候也

年　月　日　船長

清水水上警察署御中

改正法ハ昭和六年四月十五日リ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ知事ノ指定シタル貯木場以外ニ組筏及竹木ヲ繫留又貯木セル者ハ本令施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ許可ヲ受クヘシ

清水市

清水市役所

清水市相生町　電話清水（代表三〇〇番　三〇一番　三〇二番　三〇三番　九〇〇番）

市長　年五、〇〇〇　勲六功六　山田勝四郎　清水市入江九九ノ一　電話清水一三四番

助役　年三、〇〇〇　正七　佐藤繁一　清水市上清水三六一　電話清水九〇三番

収入役　年二、一〇〇　一　渡邊房太郎　清水市入江九五四ノ三　電話清水五七三番

主事　年二、〇〇〇　下里龍夫　清水市上清水三九一　電話清水五四〇番

同　年一、八六〇　一木豊　静岡市北安東町四三

同　年一、八〇〇　程島定彦　清水市清水一五三　電話清水一〇三五番

主事　年一、五〇〇　正七勲六　杉浦確　清水市江尻六二六　電話清水一〇九四番

同　年一、四六〇　杉山豕二　清水市上清水三三六　電話清水八五一番

同　年一、三〇〇　永長由太郎　清水市三保三三

年一、三〇〇　堀内寅平　清水市下清水六一三

技師　年二、五〇〇　正六　川勝忍　潜水市下清水三四三　電話清水六二七番

年一、六六〇　太田精一　清水市上清水三七八

年一、二〇〇　従七　立野孝太郎　磐田郡中泉西町三八ノ二

○庶務課

課長　程島定彦
書記（秘書係主任）松本喜代太郎
書記（議事係主任）望月茂作
書記（兼）杉村令浩
書記補　長谷川光治
雇　大木敏夫
同　山田ウタ子
書記（庶務係主任）太田遼策
書記補　大石正秋
技手補　梶田儀右衛門
臨時雇　大瀧芳江
同　大瀧初江
同　杉本弘
警防係書記（兼）太田遼策
書記補（兼）大石正秋
雇　大杉昌三
同　立川ふさ子
書記（文書係主任）杉村令浩
書記　杉本慶太郎
雇　原田幾之助
同　梅原笑子
臨時雇　片山とき

同　渡邊よし江　囑託
同　加藤鈴江　雇
書記(戸籍係主任)　高橋志郎　同
書記補　佐藤千代子　同
雇　前田俊郎　同
同　永井文代　同
臨時雇　加藤益彦　同
同　府川剛三　臨時雇
同　勝澤梅子　給仕
同　藤浪とき江

○産業課

課長主事　一木豐
書記　畑榮吉　同
同　岩科英哉　同
同　河村亮　書記補
同　橋本芳郎　同
同　酒井健藏　雇
技手　高林長重

鈴木貞司
池谷勝
望月金五郎
杉山茂三
平野悌祐
益田豊己
横山アキ子
望月みち子
望月つね子

○學務課

課長主事　下里龍夫
書記　淺井安一
同　劍持敏郎
同　山梨謙造
同　望月一平
同　和田ろく
雇　長谷川治男

○兵事援護課

課長主事　堀内寅平
書記　大瀧國太郎
同　加茂新平
同　川尻甚太郎
同　柴田勳
書記補　下島勇
同　外岡銓司
雇　岩崎正治
同　堀池寛一
同　鈴木精太郎
同　八木堅治

○振興課

課長(兼務)主事　下里龍夫
囑託　牧野末男
書記　山本精二
同　高田和雄

書記　深澤重次　技師
雇　日比平一郎　囑託
同　望月晟　書記

○厚生課

課長主事　杉浦確　技手
書記　高橋喜代　同
同　伏見誠作　同
同　安間友一　書記補
同　板倉六衛　雇

○税務課

同　山田秀夫　課長主事
靈柩自動車運轉者　佐野重太郎　書記
掃除監視員　榑林承一　同
同　渡邊喜造　同
社會事業協會書記　中村周司　同
衛生組合書記　澤村正善　同

○土木課

同　立野孝太郎
同　堀義一
同　磯貝大作
同　吉川要
書記補　加藤重藏
同　藥科重吉
同　風間修市
同　田畑忠雄

○永長由太郎
同　大窪元次郎
同　寺尾功平
雇　桑原彌三郎
同　高野延一
同　堀内義孝
同　山本亮
臨時雇　本杉万平
同　望月義松

都市計畫課長技師　川勝忍
同　水崎宇吉
同　稲津淺太郎
同　井上順太郎
同　渡邊眞吾
同　久保田民三
同　鈴木良平
同　西山武雄
同　池谷清一
同　豊島道貫
同　秋田忠道
同　澤野義雄
同　池上安之助
同　小島みつ
同　小尾英子
同　植田操
同　清水清吉
同　遠藤一元
同　木下宗英

○會計課

課長收入役　渡邊房太郎
書記　吉野常太郎
同　岩崎鋭成
書記補　大塚央二
同　松永保治
雇　山本吉則
臨時雇　有ヶ谷田鶴子
同　望月豐子

○水道課

課長主事　杉山豕二
技師　太田精一
書記　中村五朗
同　石切山武治
同　長澤鐵雄
同　古牧安太郎
同　渡邊松男
同　窪田清
技手　伴野武雄
同　小長谷鑛太郎
同　村松茂良
書記補　堀池衛太郎
同　山田高次
同　奥村幸七
雇　朝倉明吉
同　藤村潔
同　芦川三郎
同　青木榮
機關士　藤井德三郎
同　瀧戸伊之助
運轉士　出水音吉

○都市計畫課

課長技師　川勝忍
書記　松永益之助
技手　縣恭平
書記補　永田正三

○工場誘致課

係長主事　程島定彦
書記　山本敏男
同　萩原彬伸

○圖書館

館長　山口康平
使丁　田島正四郎
給仕　田島いし

○清水市救護所

書記　廣住憲一
給仕　廣住とよ

○渡船事業

書記補　風間修市
船長　土屋直太郎

同　芦川松太郎
機關士　大石作平
同　曾根清吉
水夫　河部市五郎
同　遠藤昇
同　山本辰藏
切符販賣所　原木けい
同　久保田くに

○公益質舗

事務員　石川登一郎
給仕　石川きく

○火葬場

管理者　高塚和太郎
火夫　望月貞二
靈柩運轉者　佐野重太郎

○警防團常設消防部

部長　吉野寛
班長　宇佐美芳祐
同　保田伸
警防員　杉山由太郎
同　平岡隆太郎
同　河島勇吉
同　三本木忠次郎
同　中山五郎
同　山本忠平
同　瀨名正康
同　岩崎薫
同　岩崎大吉
同　齋藤清五郎
同　藤田正雄
同　河邊寅次

○市立清水病院

清水市松原町二
電話一二一三番

一、內科小兒科
院長　醫學博士　山崎明倫
醫員　廣田文雄
一、外科整形外科
皮膚泌尿器科
副院長　醫學博士　古川明
醫員　新井茂
一、產科婦人科
醫長　醫學士　高田純也
醫員　山中秀夫
一、耳鼻科咽喉科
醫員　人見和子
一、眼科
醫員　吉積達雄
一、レントゲン科
醫長　醫學士　高田純也
技手　漆畑喜之助

一、藥局

藥局長　東京藥學士　中田讓

調劑員　千葉藥學士　長瀧喜義

調劑員　藥劑師　窪田和江

○市立入江病院

清水市入江三七二
電話三五一番

院長　山崎明倫

外醫師藥劑師ハ清水病院兼務

自動車運轉者兼事務員　鹽崎忠平

各種公共團體

◉帝國在鄉軍人會
清水市聯合分會

顧問　山田勝四郎
名譽參與　山本量平
會長　望月利雄
副長　大瀧亮一郎
同　杉村喬一郎
常任參事　堀內寅平
同　柴田勳
同　外岡銓司
幹事　竹內理吉
同　池谷源一
同　大坪鐵三郎
辻分會長　稻名徹
江尻分會長　大瀧亮一郎
入江分會長　高田和雄
清水分會長　西貝義朗
不二見分會長　松本孝一郎
三保分會長　堀與一郎
岡分會長　水崎宇吉
駒越分會長　岩品久作
清水工場分會長　杉山鍵吉
清水載金屬工場分會長　雨宮政男

◉海軍部

部長　村岡源次郎
副部長　木野大吉

◉軍友會

三保會長　遠藤茂助
不二見同　小澤鐵藏
清水同　西野彌三吉
入江同　三浦市太郎
辻同　栗田督造
江尻同　木村鼎
岡同　高橋銀藏

駒越同　岩品兼吉
同　中村藤太郎
同　山本量平
同　鈴木與平
同　下里龍夫
同　○三須完一郎
同　○長岡午
同　○田代織作
同　牧田政男
同　長阪梅子
同　弓家田良平
同　小林勳
同　大場謙太郎
同　鳥山安太郎
同　飯田昇
同　澤西三三
同　○印常任
同　伊藤清
同　櫻井源作
同　稻本宇一
同　井上篤
同　西田傳五郎
同　榛葉春吉
同　成島貫一
同　望月利雄
同　渡邊房太郎
同　杉村喬一郎
同　間處武夫
同　高畠嘉勝
同　小林順三
同　市毛金太郎

事務局員

總務部長　下里學務課長
計畫部長兼事務局長　牧野末男
同副部長　山梨青年學校書記
部員　和和學務課雇
少年部長　淺井學事係主任書記
事務主任　書記　山梨謙造

◉清水市銃後奉公會

會長　山田勝四郎
副會長　佐藤繁一
同　望月利雄
理事　原田三左衛門
同　伊藤德太郎
同　中村藤太郎
同　小野壽一郎
同　鈴木與平
同　後藤磯吉
同　山田政吉
幹事長　堀內寅平

◉清水市青少年團役職員

團長　山田勝四郎　參與
顧問　佐藤繁一　同
同　鈴木昌子　同

◉大日本婦人會清水市支部

支部長　鈴木昌子
副支部長　山田尙子
顧問　山田勝四郎
同　佐藤繁一
同　望月利雄
理事　下里龍夫
同　佐藤貞子
同　西貝義朗
同　長阪梅子
同　望月とわ
同　山本たき
同　杉村喬一郎
參與　稻名徹
同　松本孝一郎
同　岩品久作
同　鈴木ふさ
同　大瀧亮一郎
同　堀與一郎
同　木村浪子
同　高田和雄
同　水崎宇吉
同　江川幸
同　藤浪益江
同　野村乙女
同　川口たき

◉清水市常會委員

佐藤繁一
下里龍夫
山崎庄十
山田武太郎
高橋銀藏
豐島豐
山田軍平
山田圖機
鍋田邦次
中村藤太郎
小野壽一郎
若林今朝一
間處武夫
三須完一郎
長島茂穎
笠井義孝
鵜飼義孝
牧田正男
鈴木平一郎
堀辰吉
杉本萬吉
長谷部清一
野村清三郎
杉山秀吉
梶文男
望月利雄
天野九右衛門
大瀧一三

岩品兼吉
柴田清作
遠藤平馬
遠藤常吉
齋藤彦左衛門
杉山寛治
兼岩靜衛
渡邊茂雄
山本正治
山田昌榮
原田三左衛門
宮城島源作
丸山常次郎
天野龍太郎
鈴木與平
鈴木昌子
菊地友吉
池田平八郎
齋藤武夫
山本良策
遠藤傳作
池上清一郎
山田政吉

◉指導員

高畠嘉勝　商業校長
市毛金太郎　女子商業校長
田代織作　小學校長
池鯉造　青年學校教諭
中村辨康　宗教家
水野信　農會技師
弓家田良平　小學校長
大場謙太郎　同
鳥山安太郎　同
飯田昇　同
野崎基夫　經濟警察主任
茗荷佐喜司　郵便局長
守屋文太郎　商工會議所理事
田中穗輔　銀行家
長岡午　國民學校長
澤西三三　同

◉幹事

渡邊房太郎　收入役
一木豐　產業課長
程島定彥　庶務課長
川勝忍　土木・都市計畫課長
杉浦確　厚生課長
杉山豕二　水道課長
永長由太郎　稅務課長
堀內寅平　兵事援護課長
下里龍夫　振興・學務課長

◉大政翼贊會清水市支部

支部長　山田勝四郎
常務委員　佐藤繁一
同　鈴木與平

同　原田三左衛門
同　山本正治
同　竹内理吉
同　伊藤榮太郎
同　山田昌榮
同　堀辰吉
同　杉山清太郎
同　杉村喬一郎
同　西貝義朗
同　杉山寛治
同　杉山秀吉
同　間處武夫
同　齋藤整一郎

◉清水市翼賛壯年團

團長　山田勝四郎
副團長　鈴木與平
本部長　杉村喬一郎

◉清水市町内會長

相生町　井上幾太郎
旭町　栗田督造
島崎町　山崎庄十
仲濱町　宮澤長久
末廣町　小林理一
眞砂町　長谷川長平
辻第四　喜橋五郎
辻第五　杉山清太郎
矢倉町　山田武太郎
吉添町　國持彌重
新巴町　横山藤七
本郷　伊豆川常造
鍛治町　池上和市郎
鑄物師町　池上政次郎
傳馬町　柴崎賢一
七軒町　望月伊作
志茂町　磯田長作

江尻仲町　齋藤彦左衛門
魚町　川村秀三
紺屋町　若杉順吉
小芝町　遠藤平壽
小芝三丁目　岩崎銀之介
二ノ丸　梅澤德次
大手町　杉山寛治
宮代町　藤浪芳作
巴町　三保喜太郎
入江一　渡邊茂雄
同二　三木愛三郎
同三　杉山秀吉
大曲　山崎松次
元城町　飯島政市
元追分　府川平作
新富町　久保田德太郎
鶴舞町　鈴木馨
榮町　勝澤信太郎
入江岡　豐島豐

上清水　芦川榮太郎
片羽　天野龍太郎
横濱町　井柳音吉
下清水　太田政吉
船越　大石秀太郎
清水上一　齋藤豊藏
同上二　高橋銀藏
清水本町　石野源七
袋町　中村源吉
新魚町　宮本惣平
清水仲町　山田軍平
本魚町　鈴木平一郎
美濃輪　鈴木一
松井町　望月音次郎

港町第一　遠藤午藏
同第二　青島清一
築地町　片瀬兵吉
富士見町　風間新八郎
萬世町一　丸山常次郎
同二　村田達平
松原町　大石茂吉
入船町　松下政市
八千代町　杉山芳藏
幸町　松永德三郎
北矢部　菊地友吉
南矢部　鍋田延吉
宮加三　片山龜太郎
村松中　池田平八郎

村松南　竹田辰藏
同原　大瀧善吉
妙音寺　杉村敏郎
駒越　齋藤武夫
增　萩原要作
蛇塚　望月忠兵衛
三保第一　遠藤傳作
同第二　宮城島源作
同第三　遠藤和夫
同第四　遠藤常吉
宮方　宮城島清吉
塚間　野村清三郎
折戸　堀長喜知
（七七町内）

清水市會議員

一番　菊地友吉　北矢部四九五　農業
二番　山崎庄十　島崎町一三六　會社員　電一三六

三番	杉本萬吉	村松一三八	農業		
四番	佐藤文雄	江尻六六七	著述業	電	二七二
五番	山崎泰治郎	入江九三七	肥料商	電	一一二〇
七番	小野壽一郎	入船町一丁目一六	米雜穀商	電	二九五
八番	結城源一	巴町八七	會社員	電(呼出)	一〇四二
九番	青木理吉	入江一九五	土木建築請負業	電	一六二
一〇番	野村清三郎	三保四四六	紙糸製造業		
一一番	長谷部清一	江尻八七九	新聞記者	電	一一八一
一二番	豊島豊	入江七一九	古物商		
一三番	若林今朝一	仲濱町二七	著述業	電	七一九
一四番	伊藤榮太郎	下清水六〇八ノ二	銀行員	電(三保)銀行六二	
一五番	山田政吉	清水五〇二	醬油商	電	四五五
一六番	堀辰吉	折戸六八三	銀行員	電(呼出)銀行八三八一七〇	
一七番					
一八番	杉山秀吉	入江一二三〇	農業	電(呼出)	三八四
一九番	鈴木平一郎	清水五〇〇	會社員	電	一四一

二〇番	遠藤茂助	三保三三〇七	肥料商	電(三保)	四
二一番	鈴木喜輔	上清水二三ノ一	劍道教師	電(呼出)	五三〇
二二番	山本量平	清水三四二	酒雜貨商	電	六八四
二三番	川島松藏	巴町一〇四	木材商	電	六八二
二四番	望月源太郎	下清水六一四	會社員	電會社	一二六〇
二五番	中村藤太郎	萬世町二丁目一五	會社員	電自宅 會社	六一三 六〇一
二六番	村岡源次郎	上清水一四六	請負業	電	一一二一
二七番	伊豆川常造	江尻一八	釀造業	電	六六〇
二八番	小林理一	末廣町一二	薪炭業	電(呼出)	一二八九
二九番	稲名龜造	巴町三六	會社員	電自宅 會社	九六五 九一七
三〇番					
三一番	山本正治	深崎町一五	運送業	電會社	一一六六
三二番	宮城島清吉	三保三一二ノ七	養鷄業	電(三保呼出)	七二
三三番	望月善左衞門	宮加三四〇三	農業		
三四番	伊藤清	上清水三〇四	會社員	電自宅 工場	九〇一 一三六〇
三五番	若杉愛吉	江尻本丸町一	會社員	電(呼出)	四四五

◉市會役員及各種委員

市會議長　中村藤太郎
市會副議長　小野壽一郎
名譽職參事會員
同　山崎庄十
同　結城源一
同　青木理吉
同　山田政吉
同　鈴木平一郎
同　川島松藏
同　望月源太郎
同　小林理一
同　宮城島清吉
同　若杉愛吉
都市計劃靜岡地方委員會委員
同　菊地友吉
同　杉本萬吉
同　若林今朝一
同　村岡源次郎
同　伊豆川常造
同　山本正治
國民學校學務委員
同　青木埋吉
同　若林今朝一
同　伊藤榮太郎
同　稻名龜造
同　鈴木與平
青年學校學務委員
同　山崎庄十
同　杉本萬吉
同　野村清三郎
同　鈴木喜輔
同　山本量平
同　伊藤清
同　若杉愛吉
常設土木委員
同　結城源一
同　小林理一
同　佐藤文雄
同　野村清三郎
同　遠藤茂助
同　伊豆川常造
同　望月善左衛門
同　伊藤清
同　山本量平
同　柴田準藏
同公民
同　杉山德次郎
同　上口與右衛門
常設水道委員
同　菊地友吉
同　佐藤文雄
同　山崎泰次郎
同　長谷部清一
同　豐島豐
同　堀辰吉
同　杉山秀吉
同　鈴木喜輔
財政調査委員
同　中村藤太郎

同　小野壽一郎
同　野村清三郎
同　豐島豐
同　若林今朝一
同公民
同　伊藤榮太郎
同　堀辰吉
同　鈴木喜輔
同　村岡源次郎
同　山本正治
市勢發展調査委員
同　中村藤太郎
同　小野壽一郎
同　山崎泰次郎
同　山田政吉
同　堀辰吉
同　杉山秀吉
同　遠藤茂助
同　山本量平
同　望月源太郎
同　稻名龜造
同　山本正治
同　望月善左衛門
同公民
同　柴崎賢一
同　原田三左衛門
同　守屋文太郎
同　鈴木與平
同　松村三郎
同　深江幸太郎
同　山崎泰次郎
同　長谷部清一
保健衛生委員
同　豐島豐
同　遠藤茂助
同　川島松藏
同　望月善左衛門
臨時都市計劃評價委員
同　杉本萬吉
同　長谷部清一
同　杉山秀吉
同　鈴木平一郎
同　宮城島清吉
同　伊藤清
同　井上爲吉
同公民
同　池上清一郎
同　白鳥茂作
同　坪井茂三郎
市制調査特別委員
同　中村藤太郎
同　小野壽一郎
同　結城源一
同　伊藤榮太郎
同　堀辰吉
同　鈴木平一郎
同　村岡源次郎
同　稻名龜造
同　山本正治

◉所得稅調査委員

清水所得稅調査委員選擧は十月十日午前八時投票開始午後三時半終了。有權者總數一千五百七十八名。投票總數一千三百二十九名。棄權二百四十九名（一割五分七厘）開票の結果左の如く推薦四名非推薦二名當選した。

二六七票　山本　量平（再）
二一六票　風間　圭作（新推）
一六三票　稻名　龜造（再推）
一三八票　白鳥　茂作（新推）
一三三票　坪井實知男（新）
一二二票　堀　辰吉（新推）

◉家屋賃貸價格調査委員

齋藤　久藏
石野　源七
高橋　銀藏
山崎　庄十
稻名　龜造
杉山　秀吉
同　宮澤　長久
同　山崎　庄十
同　小林　鋪平
同　大場　由藏
同　大場　くら
委員（江尻學區）
同　池上　清一郎
同　鶴谷　俊了
同　淨見　泰嶽
同　柴田　龜吉
同　高橋　堅太郎
委員（辻　學區）
同　小澤　源作
同　長澤　達一
同　曾我　賢量
同　中川　宗太郎
同　遠藤　玄信
委員（入江學區）
同　久保田　德太郎
同　鵜飼　義孝
同　五條　德太郎
同　杉山　富次郎
同　寺井　だい
委員（不二見學區）
委員（清水學區）
同　石野　源七
同　山田　軍平
同　山田　政吉
同　丸山　常次郎
同　長橋　とめ
委員（岡　學區）

◉靜岡縣方面委員

清水市地區擔任委員

同　籠波　益江
委員（駒越三保學區）
同　岩品　新作
同　堀　長喜知
同　宮城島　元治
同　柴　金右衞門

◉清水港第二期修築工事期成同盟會役員

清水市長　山田　勝四郎
會長　市會議長　山田　勝四郎
副會長　清水商工會議所會頭　中村　藤太郎
同　原田　三左衞門
市會副議長　小野　壽一郎
常任委員　市會議員　小野　壽一郎
同　稻名　龜造
同　山崎　泰次郎
同　山田　政吉
同　伊藤　榮太郎
同　堀　辰吉
常任委員　縣會議員　名譽會員　鈴木　平一郎
同　山本　量平
清水商工會議所副會頭　鈴木　與平
常任委員　商工會議所議員　植田　朋八
同　天野　九右衞門
同　渡邊　銀作
同　坂上　政次郎
同　長島　銀藏
同　柴田　準藏
同　守屋　文太郎
理事　清水市助役　佐藤　繁一
袖師村長　柴田　忍
興津町長　木下　新作

◉清水港甲府市間道路期成同盟會役員

清水市長
會長　山田　勝四郎
清水市會議長
副會長　中村　藤太郎
清水商工會議所會頭
同　原田　三左衞門
常任委員　清水市會副議長
委員　小野　壽一郎
清水市會議員
同　結城　源一
同　若林　今朝一
同　小林　理一

同　佐藤文雄
同　望月善左衞門
同　遠藤茂助

◉清水市教育會

總理　山田勝四郎
會長　下里龍夫
副會長　高畠嘉勝
同　三須完一郎
顧問　佐藤繁一
同　間處武夫
同　小林順三
同　市毛金太郎
幹事　三須完一郎
同　長岡午
同　田代織作
同　大場謙太郎
同　弓家田良平
同　城所武平

同　鳥山安太郎
同　飯田昇
同　澤西三三

◉神職會清水支部

長　島茂顯
酒井保平
川口茂
長　島半藏
大庭好太郎
松田金太郎
稻葉繁穗
吹田政吉

◉清水市防空本部

本部長　山田勝四郎
次長　佐藤繁一
總務係長　程島定彥

◉清水市警防團

團長　山田勝四郎
副團長　天野九右衞門
同　佐藤繁一
第一分團長　劍持宰司
第二分團長　佐藤覺次郎
第三分團長　小長井豐司
第四分團長　山本量平
第五分團長　杉本萬吉
第六分團長　齋藤半一郎
第七分團長　藤浪文藏
第八分團長　井柳音吉
第九分團長　竹內理吉
水上分團長　平岡昌一

清水商工會議所

清水商工會議所
清水市相生町三
電話二〇〇番

議員

一番　洋物商　三保喜太郎
二番　運送業　清水運送株式會社　代表者　入谷麟助
三番　回漕業　株式會社天野回漕店　代表者　天野九右衞門
四番　呉服商　中村新太郎
五番　製材製函、海運業　渡邊銀作
六番　印刷文房具商　磯田長作
七番　罐詰製造業柑橘商　佐藤覺次郎
八番　鐵工機械工業　望月辰藏
九番　銀行業　株式會社靜岡三十五銀行　代表者　中津川藤四郎
十番　米雜穀、纖維工業　小野壽一郎
十一番　セメント建築材料商　柴田準藏
十二番　酒、味噌商　山本量平
十三番　製菓業　望月平八郎
十四番　塗料製造業　長島銀藏
十五番　海運業　有限會社鹽山商會　代表者　鹽次鐵雄
十六番　銀行業　株式會社駿州銀行　代表者　和田靜三
十七番　金網、農機具商　長澤重兵衞
十八番　藥種商　眞長兵衞
十九番　下駄製造業、家具建具商　小長井豐司
二十番　青果商　合資會社清水青果乾物市場　代表者　鈴木平一郎
廿一番　油脂船具商　株式會社丸五鈴木商店　代表者　竹內理吉
廿二番　合板製造業　株式會社清水合板製作所　代表者　阪上政次郎
廿三番　代用コルク製造罐詰販賣業　高田璋一
廿四番　石炭、回漕、製鹽業　株式會社鈴與商店　代表者　鈴木與平

廿五番	製油業	豐年製油株式會社 代表者 原田三左衛門
廿六番	酒釀造業	岡田大三
廿七番	製罐工業	寺田喜代太
廿八番	造船業	株式會社金指造船所 代表者 金指吉昭
廿九番	下駄製造業	稲名徹
三十番	鮮魚介商	株式會社清水魚市場 代表者 芝野信一郎
卅一番	土木請負業	櫻井康弘
卅二番	罐詰製造業	清水食品株式會社 代表者 植田朋八
卅三番	鐵工機械工業	伊藤德太郎
卅四番	製材製函業	福島庄太郎
卅五番	吳服商	黑田德次郎
卅六番	醬油釀造業	渡邊清吉
卅七番	鐵工鑄造業	合資會社清水鑄造所 代表者 遠藤市太郎
顧問	清水市長	山田勝四郎
同	前清水商工會議所副會頭 天龍製材株式會社々長	中村藤太郎

顧問	日本輕金屬株式會社取締役清水工場長 理學博士	西田傳五郎
同	大信洋行主	岡野繁藏
會頭	豐年製油株式會社 代表者	原田三左衛門
副會頭	株式會社鈴興商店 代表者	鈴木與平
副會頭		小野壽一郎
常議員		渡邊銀作
同		磯田長作
同		伊藤德太郎
同		長島銀藏
同	株式會社清水合板製作所 代表者	阪上政次郎
同		柴田準藏
同		山本量平
理事		守屋文太郎

◉清水商工會議所議員部屬部

商業部

部長		渡邊清吉
副部長		三保喜太郎
工業部		
部長		望月辰藏
副部長		小長井豐司
交通部		
部長	清水運送株式會社 代表者	入谷麟助
副部長	有限會社鹽山商會 代表者	鹽次鐵雄
理財部		
部長	株式會社駿州銀行 代表者	和田靜三
副部長	株式會社丸五鈴木商店 代表者	竹內理吉
觀光部		
部長		黑田德次郎
副部長		高田璋一
貿易部		
部長	清水食品株式會社 代表者	植田朋八
副部長		稲名徹

官公署

◉農林省興津園藝試驗場

庵原郡興津町 電話興津四三番

場長	從四勳三	淺見與七
主任技師	從七	梶浦實
技師	從七	森英男
技手	勳八	岩崎藤助
屬	同	藤篤介
技手	勳八	高田邦輔
同		門田寅太郎
同		飯久保昌一

◉清水港務所

清水市日之出町
電話六二九

所長　正五勲五　小畑英五郎
主事　外山鷹次郎
書記　彦山輝治
技手　藤波善郎
同　山口辰男
同　八木忠義
雇　岡谷嘉一
同　野島龍雄
工事雇　奥田德平
工事雇　望月金藏
監規人　加藤松藏
同　千葉良一
同　鈴木勇
同　安達銀三郎

◉清水稅關支署

清水市日之出町
電話四二九

支署長　稅關事務官
正六勲五　江淵音松
靜岡驛出張所長　稅關事務官補
正七勲七　山崎二郎
稅關事務官補　岩堀敏郎
同　勲八　竹原健次郎
下田出張所長　稅關事務官補
稅關事務官補　岡崎藤男
稅關鑑査官補兼稅關事務官補　稻江隆義
稅關鑑査官補兼稅關事務官補　河合重義
稅關事務官補　岩本顯
同　末吉廣五郎
同　船橋利一
稅關事務官補兼植物檢査官補　生子貞治
稅關事務官補　小島正保
同　梅川巴
同　程島秀夫
兼植物檢査官補地方農林技師　吉田嘉七
稅關技手　野田光藏
雇　杉山德太郎
同　庄司新太郎
同　三浦はるゑ
同　佐塚利雄
同　碓井惠美子
同　小澤芳子

◉名古屋地方專賣局清水出張所

清水市新港町
電三〇四・一、三九

專賣局副參事
所長　正七勲六　武田保
專賣局書記　渡邊候一
同　新間榮一
同　鹽津初江

◉靜岡縣立柑橘試驗場

清水市駒越天地ケ谷
電話一三七二

農林技師
場長　正七　高橋郁郎
農林技師
從七勲六　田中諭一郎
農林技手　野口德三
同　倉田繹
主事補　高田健三
助手　淺岡士郎
同　大下秋弘

◉清水市國民職業指導所

清水市江尻小芝町六番地ノ二三十二番地
電話一〇三三・一三七〇

所長　從七勲七　佐野兵吉

同　芝山利治
同　成瀨仲四郎
同　石川鶴吉
同　河村清造
同　堀董一
同　細見猛郎
同　鈴木將司
專賣局雇　本多譽治
同　豐島豊吉
同　古田邦夫
同　風間幸子
同　杉山あや
配給員　澤野宗三
同　橋本音造
同　石原洲作
同　內藤宇之助

◉靜岡縣工作機械檢定所

清水市江尻天神町二二
電話一、三七一

地方商工技師
所長　正七　吉川計介
商工技手　栗田讓一
技手　（定員三名）
商工主事補　和田忠次郎
雇　赤堀圓一
同　芳賀英雄
同　高木繁
同　小笠原兩

◉靜岡縣機械工業試驗場

清水市江尻天神町二二
電話一、三七一

地方商工技師
場長　正七　吉川計介
商工技手　栗田讓一
技手　（定員三名）
商工主事補　和田忠次郎
助手　寺田文一
同　土井勝儀

谷口芳三
法月誠二
若杉德太郎
鈴木猪太郎
高木武
川野秀雄
伴野榮
原川鐵三
梅澤勇
滿留薫
望月國雄
河村敏男
馬場四郎
廣瀨寅吉
杉山たけ子
齋藤重子
重吉千代子
杉山てる子
望月やす子

◉清水警察署

清水市江尻大和町
電話六六—二一〇

地方警視
署長 從七位 梶文芳
警部
次席 石川四郎
警部補
保安 小川三吉
特高 稲葉玄六
司法 岡本實
經濟 市川駿宜
巡査部長
會計 勳八 近田若芳
營業、庶務 磯野孝作
司法 岩崎周藏
情報 菅沼一雄
特高 宮塚勳
經濟 日向嘉一
警務、衞生 勳七 殿岡榮作
工場、建築 美和憲一
司法 佐野隆司
兵事、警防 榛葉太郎
興津 長谷川秀太郎
蒲原 井深貞政
富士川 吉澤修三
巡査
建築 中村良一郎
會計 金子傳作
衞生 沼倉誠
燃料 和泉芳夫
勞政 勳七 井出範
特高 八木節
同 日吉榮一郎
同 秋山茂
交通 勳七 西田敏夫
情報 水島重藏
司法 佐藤廣一

同 山本正吾
同 中村欽一
同 船戸公雄
特高 勳八 安本孝平
司法 小松文市
經濟 久保田鐵次
同 星野庄平
同 河合義勝
同 青島武一
同 成田忠

◉横濱海務局清水支局

清水市日之出町
電話一二〇一

海務局技師 從七 土屋晉
同 技手 粟野一男
同事務官補 片瀨正治
同同 土屋忠雄
同無線電信手 長谷川萬
天城丸船長 杉村金一
同 機關長 八木春平
同無線電信手 高塚益次
囑託 梅田忠三郎
魚群探見飛行士囑託 佐々木實
同 無線電信手 綾部市之助
同 魚見役 原崎周平

◉清水船員職業紹介所

清水市日之出町
電話一二〇一

事務員 青柳和歌子

◉私設無線電信電話檢査官清水駐在所

事務員 青島銈作

◉靜岡縣水產試驗場

清水市日之出町
電話三三五

農林技師 場長 關晴雄
農林技師 羽部修
農林技手 永野和雄
同 岡本義雄
農林主事補 片寄正一
無線電信手 長谷川昇作
同 助手 辻村正
東海丸船長 森田鶴之助
同 機關士 森田秀治

◉清水驛

電話一八四・八五〇番

驛長 從七勳八 生駒信彌
助役(首席) 川口金吾
助役 鹽崎信太郎
同 久米正次
運轉助役 山梨勉一
同 井上明

豫備助役　原田安次郎
同　近藤里平
庶務主任　鈴木營次
出札兼電信掛主任　齋藤富太郎
小荷物掛主任　柳瀨廣
貨物係主任　從七勳八　小和田榮一
貨物係(次席)　辻村盛

◉清水港驛

助役　坂田慳一

◉清水埠頭驛

貨物掛(首席)　齋藤豐廣

◉清水保健所

清水市上清水
電話一三六九

所長(兼任)衞生技師　米倉秀雄
衞生技師　中村義男
衞生主事補　渡邊護
衞生技手　佐藤正治
保健指導員　鈴木善一
同　川田八重子
同　渡邊勇
保健婦　大杉千枝
同　飯田ちよ
同　眞野靜江

◉庵原地方事務所

清水市江尻小芝町
電話六一八番

地方事務官
所長　亀山巖
總務課長　屬　山本富美男
庶務係(兼)屬　鈴木善作
貯蓄奬勵主事補　稻葉正二郎
國民運動主事　田淵芳治郎
(兼)縣書記　市川藤吉
(兼)縣書記　時森良作
(兼)縣書記　土屋正雄
雇　大田よし
會計係屬　鈴木善作
(兼)國民運動主事　田淵芳治郎
縣書記　市川藤吉
同　時森良作
同　曾根太津雄
同　土屋正雄
雇　浦田均
軍事厚生課長　屬　宮城島猪之吉
軍事係縣書記　岩科正夫

厚生係雇　吉田忠吉
學務課長　視學　安中新平
屬　望月五郎
雇　杉山はる江
經濟課長　屬　長島伊三郎
統制係　農林技手　石塚清水
配給調整主事　保田金吾
商工奉仕員書記　三浦齊
雇　鈴木すぎ
產業係耕地係
農林技手　大畑勝次
農林技手　青木柴郎
(兼)同(蠶業取締所靜岡支所長)　松山喜太郎
(兼)同　林產物檢査所靜岡出張所長　福住康平
(兼)同(安倍地方事務所)　瀨戸武行
(兼)農產物檢査所靜岡出張所長　望月年朗
參與員　吉川禎太郎
片平七太郎
堀池潔
柴田忍
國持史郎
三上陽三
宮本均之
手島日眞
加藤和作
西ケ谷阿茶

◉清水水上警察署

清水市日之出町
電話二〇〇

警視　水上事務取扱　梶文芳
警部補　次席　市川常義
巡査部長　清水市日之町官舍　藁科茂十郎
巡査　石川清司
同　龜井秀次
同　高柳久吉
同　藤田信一
同　山口正一
同　鳥居寛
雇水夫　長島春一郎
同　福井虎五郎
同　鍋田鉚作

◉清水郵便局

清水市相生町
電話一

局長　石井榮次郎
主事　通信書記從七勳七　羽田鑒
同　通信技手勳八　松永平藏

同　通信書記　和田環
同　通信書記勳八　黑澤榮
同　稻田啓一
同　遠藤覺二郎
同　通信技手　弓削治
同　通信書記　山口芳朗
同　正八勳八　神谷關太郎
同　通信書記　永田友吉
同　鳥居末吉
同　望月改造
同　大杉金作
同　出島新一
同　出口錠次郎
同　望月はま江
主任　駒越　齋藤整一郎（清水二二〇〇）

◉市内郡部各局長

三保　内藤照男（三保一）

波止場（清水一二九五）　宮本勝一
局長六四八）
鈴木正平（清水八四三）
望月文雄（清水一二九六）
木村信三（清水八四二）
府川平作（清水一二九八）
川端千代作（有度一）
杉山武七（清水一二九七）
小長井由作（清水一一九九）
山梨義雄（庵原一）

◉江尻電話中繼所

庵原郡飯田村下野
電話八三九
試驗長　遞信技手兼遞信局技手
工學士　横井金平

◉清水燈臺

清水市三保
燈臺技手　馬根幸三郎
八幡賢三郎

◉靜岡區裁判所清水出張所

書記　岩本清作
雇　望月藤夫
同　久保田行雄
同　堀池信夫

◉靜岡區裁判所興津出張所

書記　加藤辰雄

◉靜岡區裁判所蒲原出張所

書記　宮本千代作

◉靜岡稅務署收稅官吏出張所

清水市日之出町
電話三二三番

學事

清水高等商船學校（假稱）

本校は大東亞戰下政府の計劃造船遂行に伴ひ高等船員養成を目的とし建設さるるもので、修業年限三ヶ年、定員三千名を收容し十八年度は七百八十名を入學せしめ、開校する建設經費總額〇〇〇〇であるが更らに追加豫算にも計上し設備の完璧を期する事と聞き及んでゐる。

なほ本校は海務院船員部教育課の所管に屬する。

國防理工科大學

本校は財團法人國防理工科學園經營にして、創設費〇〇〇〇萬圓第四年以降に於ては運用維持費〇〇萬圓を要し、修業年限は豫科三年、學部三年にして收容人員は豫科一學年當り三百名、學部一學年當り三百五十名の豫定で左の七學科を設くるものとす

一、生產化學　二、航空工學　三、造船工學　四、兵器工學　五、生產機械工學　六、電氣工學　七、燃料工學

入學資格は豫科に在りては中學四年修業程度本科は豫科卒業生又は專門學校及高等學校卒業生より募集す。

教育方針としては左の數項が擧げられてゐる。

一、歷史進展の原理を洞察し民族の使命を把握せる健全なる國家觀、世界觀を確立す。
二、全學生を校内寄宿舍に收容し心身の錬成を行ひ精神力旺盛體力强健なる人材たらしむ。
三、大東亞の資源及環境に立脚せる東亞的性格の科學技術確立に重點を置く。
四、國防科學技術水準の向上を圖りその先進性を確保す。
五、科學、技術の實際化を圖るため學校と實務との連絡を密にすると共に教育科目に於て經濟關係のものをも重視す。

航空物理專門學校

本校は創設費〇〇〇萬圓國防理工大科設立完成後は同校附屬の專門部となるものであるが、既に設立の準備を完了し十八年四月一日より開校の豫定で、修業年限三ヶ年生徒定員は一學年當り二百四十名入學資格は中學校及甲種實業學校卒業者又は同資格者中から採用し、學科は航空學科及物理學科に分れてゐる。

▽縣立清水中學校
清水市江尻天神町一五五
電話四九一

校長兼教諭　從五　間處武夫
教諭　從七勳五　三上正男
同　正七　池上善作
同　從七　伊藤恒久
同　從七　曦文英
同　大石佐太郎
同　和田捷雄
同　仲川鈴夫
同　瀧本辨次郎
同　土藏博司
同　的場次郎
同　從七　小林金治
同　山崎久男
同　池田豊二

同　桑高房治
同　池本重男
同　木久隆
同　杉山藤太郎
同　鈴木光太郎
同　村松壽三郎
同　伊藤正猪
同　中田弘
同　田丸茂男
書記兼教授囑託　勳八　吉野健一
同　清善作
教授囑託　野村裕
同　從七勳五　松永啓太郎
同　羽田林之助
同　從七　寺田一男
同　海野仁
同　笹本馨
同　濱田襄太郎
同　原壽一郎
同　池谷軾
配屬將校　正八　山本惣
校醫　村手雄太郎
同　大藤兵三郎
同　花田祐敎
同　馬越亮
同　瀨戸かず
同　鈴木清
同　板山啓三
同　向山つね
同　小川たひ
同　藤村靜子
同　木宮之彦
同　深澤福二
同　細谷一二三
同　中野すゞ子
書記　荒木麗作
書記心得　久保田卯太郎
教授囑託　從六　土井ちとせ
同　從七　佐藤キヨ
同　岩堀勝雄
同　鵜飼義孝
同　戸塚たつ

▽縣立清水高等女學校
清水市上清水
電話三九六

校長兼教諭　正六　小林順三
教諭　從六　有ヶ谷鐵藏
同　從六　紙谷正
同　從七　井上治三郎
同　高橋勝
同　三科あさ
同（應召中）　加茂正男
同　望月光江

▽靜岡縣清水商業學校

清水市入江
電話二二四

校長　正五勳六　高畠嘉勝
教諭　從五　西山存次郎
同　正六　太田正規
同　正六　櫻井德太郎
同　從七　天野董雄
同　渡邊繁夫
同　神戸收介
同　小林榮
同　原壽一郎
同　鈴木繁治
同　大賀盛雄
同　岩堀勝雄
同　望月榮一
同　望月光
同　勝見昌夫
同　高橋策三
同　松野敏男
同　太田淳一
同　榊原鍵司
同　從六　內田貞次郎
同　正七勳六　田中賢
囑託　從七　土屋健次
同　陸軍少尉正八　杉山猛
同　渡邊恭雄
同　大塚英雄
同　大長九郎
同　正八　太田榮男
同　伊柳鎭之助
同　岩崎義雄
同書記心得　渡邊喜平
同　從六　熊切和夫
陸軍少佐　古波津英隆
配屬將校　從五勳四　橫田光藏
學校醫　宮原齊
同　丸山實太郎
囑託　平尾英治
同　從七　小林金治
同　神戸收介
同　伊藤正猪
教諭　相澤ちゑ
同　杉山はつ
同　三田志津子
理事　教諭　市毛道子
教諭　從七　大村武雄
同　從六　熊谷孝
同　正七勳六　田中賢
囑託　從七　土屋健次
同　大塚英雄
同　正八　太田榮男
同　岩崎義雄
同　從六　熊切和夫
同　古波津英隆
同　正七　佐藤慶治郎
同　片田榮次
囑託　平尾英治
同　從七　小林金治
同　神戸收介
同　伊藤正猪
教諭　相澤ちゑ
同　杉山はつ
同　三田志津子

同　渡會春枝
同　清水すゑ
同　岸本芳野
同　望月貴美子
同　武谷れい
同　佐藤靜枝
囑託　馬場清乃
同　矢崎光子
書記兼教諭　岡野永三郎
書記補　八木まさ江
校醫　醫學博士　野澤廣行
齒科校醫　藤井武夫

▽忠愛國民學校

清水市下清水神田一〇〇
電話九九四

校長　正七位　三須完一郎
教頭　澤田欣作
本訓　大石和吉
同　鈴木和夫
同　西井戸利郎
同　鈴木克己
同　本杉薰
同　天野利雄
同　遠藤安藏
同　渡邊莊平
同　野ケ山茂雄
同　若林親憲
同　中神孝
同　佐藤正夫
同　高橋松壽
同　森善司
同　篠田睦雄
同（現役中）　竹上善博
同　風間さか子
同　增井清
專訓　田宮久美
同　柏木憲二
助教　長谷川万夫
同　池ケ谷孔一
同　櫻井八重
同　山口嘉孝
同　依田博士
同　土屋きよ
同　佐藤かね
同　榎田とめ江
同　杉山シヅ
同　堀場志津子
同　渡邊喜代
同　小池勝子
同　石上みち枝
同　水島卓司
同　勝山靜夫
同　田代貞夫
同　野口量介
同　佐藤芳子
同　小田切忠一

同　伊藤斐佐
專訓（應召中）青木信次

▽入江國民學校
電話二三〇番
校長　弓家田良平
訓導（教頭）山崎孝三郎

▽清水國民學校
電話七六七
校長　正七勳八　田代織作
訓導（教頭）三澤定雄

▽江尻國民學校
電話二八五
校長　長岡午
訓導（教頭）林東樹

▽岡國民學校
電話六四〇
校長　大場謙太郎
訓導（教頭）飯塚治六

▽不二見國民學校
電話五九
校長　城所武平
訓導（教頭）中島富次郎

▽駒越國民學校
電話九八七
校長　飯田昇
訓導（教頭）鷲津輝

▽三保國民學校
電話三保二
校長　澤西三三
訓導（教頭）磯部昌一

▽辻國民學校
電話七八三
校長　鳥山安太郎
訓導（教頭）渡仲好雄

▽市立幼稚園
○市立清水幼稚園
園長　針谷ふさ
○市立江尻幼稚園
園長　木内せつ
○市立三保幼稚園
園長　田村つる

▽私立幼稚園
○旭幼稚園
園長　田口初吉
○入江幼稚園
園長　増田けい子
○島崎幼稚園
園長　渡邊孝英
○清美幼稚園
園長　吉田ヤツヘ

回漕

◎株式會社　鈴與商店
清水市入船町七六(3)
電話代表一二〇三(4)

取締役社長　鈴木與平
專務取締役　鈴木要二
常務取締役　安藤眞佐志
同　栢森賜
同　鈴木純平
同　青木秀太郎
取締役　鈴木まさ
同　望月竹次郎
同　山口民策
同　石川修冶
監査役　鈴木清司

本店關係店員（順序不同）
煉炭部
清水工場長　小川完二
中川銀藏
常盤冬樹
田本竹次
望月周一
栗栖義助

保險部
部長代理　高木茂久司
杉山義太郎
風間繁太郎
大石悅次
間瀨德藏
土切美之助
武田芳子

販賣部
部長　青木秀太郎
部長代理　武照雄
遠藤禮一郎
野崎聰吾
吉川清二
鹽澤茂男
大塚英雄
渡邊長三郎
石井源五郎
酒井清二
古澤秀雄
杉本美代子
渡邊金一
櫻井源作
辰己秀一

青島鈔策
宇佐美實
栗田順作
澤瀧光子

業務部

部長　青木秀太郎
部長代理　井田仁
瀧橙一
城谷佐市
川口祥平
井上安太郎
渡邊鎌三
大村益
栗田松雄
葛西要次郎
高坂昌時
堀場安之助
遠藤孝
佐野孝雄

若杉俊一
山本吉彦
大瀧政夫
田中正一
西野久朗
大石秀夫
加藤正治
間宮照枝
天野金作
中野俊太郎
栗田鐵太郎

經理部

部長　鈴木要二
部長代理　佐藤寛次
堀井麻夫
三浦孝吉
肥田忠三郎
遠藤恭平
加藤勘一

杉田多美男
小林淑男
三山一子
糠谷きみ

總務部

部長　鈴木要二
部長代理　加藤愼三
登澤幸三
竹内健治
川口彌助
渡邊藤雄
山本三郎
久米壽
小野田祐輔
川島新一
朝比奈宏一
田口菊太郎
伊東よし江
大橋すみ

三田小枝
野中時江
種茂菊江
山田二三江
土屋安枝
伊藤タネ子
池田綾子
小早川とみ

船舶部

部長　鈴木純平
部長代理　須藤一夫
龜田唯作
荒井讓
望月恒一
山中謙吉
石野清
立花浩
松田稔
中村義一

天野邦雄
星野憲次郎
望月みよ子
杉山織江
本多正衛
萩原平八郎

部長待遇
同
合資會社清水自動車商會
代表社員
主任　栢森賜
稲名正雄
大多和武
平野睦雄
安部春三
鈴木丑藏
增田德治
望月久夫

豐橋支店
支店長　石川修治
同煉炭工場
久米定藏

濱松出張所
主任　山田猛
濱松煉炭工場
主任　秋鹿定彦
半田出張所
主任　野中藤平
東京出張所
主任　山崎彦策
東京事務所
所長　山口民策
甲府支店
支店長代理　小林仙太郎
松本出張所
主任　松井昇

◎清水港灣運送株式會社
清水市港町三ノ七四
電話七九四・七九五・五五一・一四一七
五三八・二四四・一〇五九
資本金二百五十萬圓

取締役社長　鈴木與平
專務取締役　鈴木要二
常務取締役　安藤眞佐志
同　平岡昌一
同　望月源太郎
取締役　花田榮一
同　阿部芳太郎
同　竹田辰藏
同　齋藤敏之
監査役　萩原平八郎
同　山下良一
同　天野吉藏

總務部
部長　安藤眞佐志
課長　高柳久次
　　稲葉浩吉
　　松本芳一
　　齋藤忠雄
　　平井年

經理部
部長　福島美佐子
課長　高山俊郎
　　古澤益枝
　　岩川繁太郎
　　鈴木芳雄
　　末澤中
　　八木愛子
　　藤原貞子

業務部
部長　花田榮一
課長　北村芳朗
勞務課長　松永香苗
　　河村常吉
　　金子信太郎
　　矢崎次雄
　　藤下勝太郎
　　藤平作
　　伏見勇
　　片田興貴
　　齋藤政平
　　鎌田銀藏
　　木村作藏
　　杉本勝次
　　大石隆明
　　酒井源太郎
　　鈴木義雄
　　德增龍雄
　　永井景

營業部
部長　竹田辰藏
第一課長　鹽津義男
第二課長　内田昌一
　　風間義郎
　　遠藤定吉
　　鹽谷壤一
　　坪井幸一
　　大野靜枝
　　高木政子
　　原田金作
　　井上精一
　　和田勇次郎
　　德增龍雄
　　野田芳郎
　　松田萬吉
　　下元源吉
　　内藤德太郎
　　鈴木甚太郎

企劃部
部長　阿部芳太郎
課長　上田英雄
　　今村庄吉
　　初川太郎
　　鈴木音義
　　望月博

タイピスト
　　關靜江
　　坂田晃玉

交換手
　　大多和清子
　　太田千代子

各重役の略歷

取締役社長　鈴木與平氏

昭和十年三月京大經濟部卒業直ちに山下汽船會社に入社、修養を積み十二年四月退社家業に從事し、株式會社鈴與商店取締役十五年五月靜岡縣石炭商組合長同統制組合理事長、同年二月鈴與商店、鈴與倉庫、大洋石油會社の各取締役社長、同年六月清水運送、駿遠鹽業、快運自動車商會、清水食品、清水精機取締役社長、十五年六月靜岡地區機帆船海運組合理事長、靜岡電氣鐵道監査役、同年八月靜岡瓦斯會社取締役、同年十一月靜岡縣石炭統制會社取締役社長、同十

二月長野縣燃料機販賣株式會社々長、十六年七月日本倉庫靜岡縣支部長、駿河銀行監査役に夫々就任し、その他公職に在つて身邊非常に多忙の中を克く翼賛の實を擧げ職域に邁進されてゐる、今年三十三歳の青年社長、人格頗る圓滿にして明朗蓋し適任者たるを失はぬであらう。

專務取締役　鈴木要二氏

社長鈴木與平氏の令弟頭腦明晰頗る覇氣に富んで居り昭和十二年三月東京商科大學卒業後貿易商野澤組に入社し濠洲シドニー支店詰となつたことがあり、南方事情には造詣が深い、十五年六月清華海運株式會社監査役清水精機、太洋石油各取締役、鈴興商店專務、清水食品監査役、鈴興倉庫取締役、清水運送監査役等に就任し令兄與平氏の片腕となつて事業の發展にいそしまれてゐる。

常務取締役　安藤眞佐志氏

常務取締役の筆頭たる安藤氏は大正四年農科大學、林學科卒業同年九月宮内省帝室林野管理局技手拜命、大正九年長野縣木曾山林學校教諭となつた變り種でその人格風貌なほ中等教員然たるものがある。その後大正十年十一月東京峰中商會に入社して實業界に一歩を印し、大正十四年鈴興商店に迎へられて社員となり、昭和十一年三月常務取締役の椅子を占め、更らに傍系各會社の重役として今日に及んだもので、非常の努力家であるだけ信任頗る厚い。

常務取締役　平岡昌一氏

大正十五年三月慶應大學政治科出身、同年四月株式會社天野回漕店に入り昭和六年取締役支配人、同十三年一月專務取締役に累進して、同店の實權を掌握し手腕を揮はれてゐた、その他靜岡煉瓦會社監査役、日本輸出品包裝會社監査役、清進運送會社監査役等を兼ね更らに清水市警防團水上分團長の要職に在つて卒先訓練、指導に任じ大東亞戰下日夜涙ぐましき奉仕を續けてゐる。

常務取締役　望月源太郎氏

大正五年教員檢定試驗に合格した程の努力家である。同年四月私立伊藤專門學校入學法律學科を修め同八年三月學業を修へ、大正九年近衛師團經理部に於て經理教程一ケ年を修業し、大正十三年一月旭商船商事會社入社昭和十五年青木運送取締役、清華海運監査役、十六年一月清進運送取締役社長に夫々就任し、今回の統制によつて常務に拔擢された少壯の實務家で、現に青木運送の社長に就任されてゐる

取締役　花田榮一氏

昭和四年三月東京商科大學卒業同年五月鈴與商店入社東京出張所長、同九年十二月回漕部長に就任今日に及んでゐる。

取締役　阿部芳太郎氏

明治四十四年三月横濱商業卒業サミュルサミュル商會船舶部入社、大正五年大阪商船專屬荷扱店三洋運送會社專務取締役就任大正十五年五月旭商船商事會社入社昭和九年十二月青木運送會社に轉じ十五年輸出品包裝會社監査役に任じた所謂終始一貫回漕事務に携はつた貴重の經驗を有してゐる。

取締役　竹田辰藏氏

明治四十四年鈴與商店入社、大正三年回漕部動務、同十三年九月回漕部長代理として勤勉業に從ひ永年に亘り同店に勤めた功績者で、その實直振りが買はれて今日の地位を得たものである

取締役　齋藤敏之氏

船内筏請負回漕業齋藤組の後繼者でかつて清水商業を優秀の成績を以て卒業、その後軍籍に在つたが歸還後家業に精進し今日に及んだもので、重役中の最年少者相當の識見を有し烈々たる希望に燃へ、新進の氣に富んでゐる。

監査役　萩原平八郎氏

昭和三年三月慶應大學經濟部卒業と同時に鈴與商店に入り、十五年七月同店船舶部長代理兼保險部長を兼ねた、同氏の監査役就任は最も適材とされてゐる。

監査役　山下良一氏

大正四年三月靜岡商業卒業後天野回漕店入社、昭和十四年十二月同店取締役に就任し事務に長じた謹直の人である。

監査役　天野吉藏氏

明治三十八年三月巴高等小學を卒へて海運界に志し、天野回漕店に十數年勤續し、大正四年一月獨立して丸吉回漕店を開業し日の出汽船會社代理店として活躍した。尙機帆船の運行に就ては相當の實績がある。

資本金壹百拾五萬圓(全額拂込)

◎有限會社鹽山商會

本店　清水市入船町三ノ一九　電話二二〇九番・三一七番

大阪支店　大阪市港區市岡元町四ノ九　電話西(34)八〇三・二九番　八〇三・九八番

川口出張所　大阪市西區本田三番町一六　電話西四一六三・七三九番

天津出張所　天津市特一區無錫路一號　電話八局五〇・一〇二番

取締役社長　鹽次鉄雄
取締役　鹽次寛治
同　山梨弘
同　籔田國平
同　岩崎善造
庶務課長　柳澤秀雄
營業主任　兼高啓作
會計係　渡邊操
社員　長島重兵衛
　　片平てる子
　　神戸知惠子
　　山田いつ子

大阪支店

取締役支店長　鹽次寛治
營業課長　出口利次
營業主任　山田康弘
會計主任　杉山茂
庶務主任　中川章吾
　　川野敬雄
　　中根虎一
　　大橋高司
　　伏見喜之次
　　郡玉野
　　山本伍一
　　岩城清一
　　川口睦男
　　鷲尾京子
　　松木ふみゑ
　　牧野實

天津出張所

青島出張所　青島陵縣支路五號　電話2五四八〇・六八一四・六五五四

出張所長　泉正明

◎鹽山海運株式會社　清水市入船町三ノ一八　電話二五八番

取締役社長　鹽次鉄雄
常務取締役　林卯之吉
同　水口勝之
同　安部鎭八郎
同　鹽次寛治
監査役　日下義矩
同　清水潤
社員　石井正治
同　梅田勝晤
同　美馬初子
同　川口芽穗
囑託　山際勝太郎

◎鹽山土地建物有限會社　清水市入船町三ノ一九　電話二二〇九・三一七番

取締役社長　鹽次鉄雄
取締役　長島文藏
監査役　山梨弘

◎用宗遠洋漁業株式會社　清水市入船町三丁目九

取締役社長　鹽次鉄雄
取締役　大高圭三郎
同　水口勝之
同　高山彦一郎
同　籔田國平
同　竹田金平
監査役　山梨弘
同　池田德一

◎駿河商船株式會社　清水市入船町三丁目九

取締役社長　鹽次鉄雄
取締役　伴房吉
同　增田麟三
監査役　山梨弘

◎青木運送株式會社　電話一四四(代表)一四五　一四六・一四七

專務取締役　望月源太郎
常務取締役　山脇伊久三
取締役　石神福次
常任監査役　松山正一
監査役　鈴木要二

◎株式會社天野回漕店　清水市日之出町一ノ三六　電二二八五

取締役社長　天野九右衛門
專務取締役　平岡昌一
取締役　山下勝郎
　　掛井金德

帶金佐之助
同　中村保治
同　杉本義男
監査役　木下開一郎
同　高木平一
　　片山龜雄
　　池田ひさゑ
　　丹下嘉代

◎合名會社淺野信治商店
清水出張所
清水市日ノ出町一ノ三六
天野回漕店内

◎清華海運株式會社
清水市港町三
電一三八五
社長　鈴木與平
副社長　望月益之助
取締役　鈴木純平
　　山内薫次郎
　　片山勇吉
　　鈴木要二
　　望月源太郎

◎清水海運株式會社
清水市入船町三
代表取締役　安藤眞佐志
支配人　本多正衛

◎東海商船株式會社
清水市萬世町
電七五九
取締役社長　中村藤太郎
取締役　大塚尙平
同　中村彰吾
同　齋藤義平
監査役　安本源吉

◎丸吉回漕店
清水市入船町
電一〇八七・一三九三
店主　天野吉藏

◎合資會社早川回漕店
清水市港町三ノ四五
電一九九
店主　早川政高

◎北村回漕店清水支店
電五五五
尾島元治

◎清豆回漕店
清水市日之出町一ノ一九
電一〇九
店主　細川鐵之助

◎大木回漕店
清水市日之出町一丁目
電一一四二
店主　大木龜吉

◎株式會社皇道產業
燒津營團
本社　志太郡燒津町燒津七五三ノ一
電話燒津三・一五四番
取締役社長　村松正之助
專務取締役　藁科巖
同社海運部出張所
清水市港町三八
電話一三八二番
事務員　岩崎稱平
　　岡田悅二

◎船舶運營會清水駐在員
清水市入船町鈴與商店内
本多正衛
大石道子

◎靜岡縣勞務報國會
清水支部
清水市松原町三ノ三
電話一〇七六番

◎日本海事檢定協會
清水事務所
清水市港町三
電三二四
理事長　鈴木與平
常務理事　幸坂愼
理事　柴田準藏
同　青島清一
同　島崎六太郎
同　栗田福治郎
同　大木富次郎
同　菅原卯之助
同　初又德太郎
同　小池銈吉
同　吉村直藏
同　勝呂八百造
監事　北條義由
同　鳥澤梅吉
同　平岡昌一

◎清水港水先事務所
清水市港町三
電六三六
幸坂愼
同　渡邊義一

◎公認幸坂海事代願事務所
清水市港町三(電七〇)
幸坂愼
金子俊子

◎靜岡縣地區機帆船
海運組合
清水市港町三ノ七四(電六三六)

倉庫

◆鈴與倉庫株式會社

本店　清水市入船町三丁目十三
　　電四・一、三〇三—一、三〇六　十六—十八

支店　甲府市水門町十七
　　電二、七〇一番・三、五三〇番

半田市三平曲輪十三番地
　　電六五番

資本金壹百萬圓(金額拂込濟)

取締役社長　鈴木與平
常務取締役　齋藤恒三郎
取締役　鈴木要二
同　青木秀太郎
同　山口民策
監査役　鈴木清司
同　栢森賜
甲府支店代表　小林仙太郎
半田支店代表　野中藤平

社員

稲葉孝喜
松坂寅雄
中田石太郎
渡邊盛
長阪正夫
薩川敬一
桑原芳太郎
堀川敏夫
鍋田康次
荒井敏夫
堀健次
由原木富造
水野とき
堀澄子
杉山雪江
山本百好

◆清水倉庫株式會社

清水市日之出町一
電九四六・二九九・七五六

取締役社長　中村圓一郎
常務取締役　竹內辰雄
取締役　前川道平
同　鈴木與平
監査役　廣田種雄
同　若槻貞雄
社員　稲垣哲三郎
　　柴尙司
　　柴曉
　　中山修二
　　望月政治
　　竹內弘
　　山口大作
　　伊藤勝四郎

水崎桂太郎
村岡實
千葉史郎
岩佐馨
渡邊敬三
橋本眞次
近藤一夫
小原龍夫
望月德治
香川時太郎
橋本ひろ子
成岡八重子
廣野よし子
寺口あや子
古郡愛子
松永ゆり子

◎株式會社清水木材倉庫

清水市富士見町一ノ九木材ビル
電話七〇五番

資本金　貳拾四萬圓

取締役社長　安藤眞佐志
取締役　松村鄕太郎
同　中村藤太郎
同　高塚龜一
同　福島庄太郎
監査役　平尾源六
同　增田麟三
同　鈴木與平
支配人　岡本福松

運輸

◎清水運送株式會社

清水市新港町五ノ五
電話七四三・七四三・九七三

清水驛支店
電話　一六四・一六五・一六六・一六七

埠頭支店
電話　六五三・一三五

取締役社長　鈴木與平
專務取締役　入谷麟助
常務取締役　藤浪芳作
取締役　至坂長
同　小川常吉
同　松永與一
同　增井謹吾
監査役　望月和一郎

同　鈴木要二
同　上中甲堂
相談役　山田勝四郎
同　杉本敬一

本社

庶務係長(兼)　藤浪芳作
服部清作
佐藤晴江
大川久惠子

經理係長(兼)　櫻田たつ
小川常吉
太田太助
亀山鐵夫
望月錦吾
吉川良雄
植村虎雄
青木春吉
坂川きやう
望月富代

發送・到着係長(兼)　松永與一
望月龜之助
山田寅男
杉山鐵吉
熊谷直幸
遠藤勇
鈴木森治
松澤誠次
山梨隆
山本萬吉
外岡慶治
山本勘藏
高橋准
市川利
吉川恒夫
平野留次郎

作業

埠頭支店

發送・到着係長(兼)　松永與一

作業　米山卯太郎
内田三郎
杉山武次
齊藤弘
山崎常平
中塚久子
高木茂子
大瀧五郎
岩崎寅吉
原弘
服部利一
杉山敏一
市川耕二

清水驛支店

支配人　長阪至

庶務會計係長(兼)　長阪至
高田邦太郎
久保田栅吉

太田昭三
木村庫次郎
渡邊正子
石原かづ子

車扱發送係長　若林光義
芦川喜美
望月忠義
山本倉雄
望月弘子
松下君江

小口發送係長　田島彌四雄
杉山賀作
杉山英太郎
秋山清
八木勇
山田健司
金子良平
鈴木留藏
小長谷一

到着係長　栗田三郎
望月炳
山本和子
森下咲子
青島美都江
長谷川皚治
牧田劍次郎
井木茂
高橋博
宇佐美行雄
風間康司
渡邊香津美

作業係長(兼)　增井謹吾
今澤九平
川島幸次郎
田中宏治
川島正治
漆畑一郎
石ケ谷玉子

現場　氏原泰江
飯田鎌三郎
宇佐美小作
外岡友三
加茂幸次郎
杉山邦太郎
鳥羽義平
太田新助
菊地正作
池ケ谷英雄
海野善雄
川島庄吉
八木伊之助
池田七藏
太田壽三郎
望月和市
大瀧正治
木下和一
永島清一

飯田幸次郎
勝山宗一
杉本武治
川島幸作
杉山秀太郎
望月忠
佐々木金吾
望月廣吉
堀金藏
石垣彦次郎
岩品作次郎
岩岡伊一
鹽津久雄
遠藤平治
長澤良一

⊙港運輸株式會社
清水市壽町一ノ五八
電九五・八三一・一三八三

専務取締役 入谷麟助
取締役 小川藤作
同 柴田與一
同 松本榮藏
同 長澤虎藏
監査役 藤浪芳作
同 窪田平吉

駒越車庫（電一一七三）
三保車庫（電 三九）

⊙合資會社清水自動車商會
清水市入船町三
電話二三〇三・二三〇四
代表社員 栢森賜
主任 稻名正雄

⊙清進運送株式會社
清水市入船町三ノ四
電 九 四二
日本通運保證加盟店

取締役社長 望月源太郎
専務取締役 竹內辰雄
常務取締役 梅島喜太郎
取締役 石神福次
同 永田惣平
同 細川鐵之助
同 平岡作次郎
同 杉山織次郎
監査役 平野峰吉
同 望月益之助
同 平岡昌一
清水驛支店 梅島喜太郎
永田惣平

⊙日清運輸有限會社
清水市日之出町一丁目二番地
電二九九・九四六・七五六
專務取締役 竹內辰雄
常務取締役 平岡昌一
監査役 永田惣平

主任 大木久男
寺尾龜太郎
大石直吉
大木重夫
山崎福子

⊙靜清運輸株式會社
清水市末廣町三九
電三五・九九二・一三二番
取締役社長 眞田良一
專務取締役 望月安藏
取締役 宮城長太郎
監査役 武田藤平
靜岡出張所
靜岡市之出町（電八八二）

⊙日本通運株式會社
靜岡支店清水派出所
清水市新港町五ノ五
大石諄平
山梨滿

⊙第一運輸有限會社
清水市港町三ノ四五
電七七六・六五二
取締役（代表） 片山勇吉
取締役 早川政高
同 杉山熊吉
同 尾關龜吉
同 沼田貞治
監査役 芝野恭助
山本信次郎
松浦今吉

⊙羽衣運輸有限會社
清水市入船町三ノ二八
取締役社長 本郷平太郎
常務取締役 濱田兵吉
取締役 內藤實
監査役 平岡清吉

交通

◆靜岡電氣鐵道株式會社
靜岡市鷹匠町二丁目七十一番地
電話靜岡五五〇・六五九〇・七五番

取締役會長 子爵織田信恒
取締役社長 五島慶太
專務取締役 三上宣綱
取締役 篠原三千郎
同 丹羽武朝
同 鈴木幸七

同　小宮次郎
同　多久安信
同　磯野新藏
監査役　三宮四郎
同　中村嘉十
同　鈴木與平
總務課長　伊藤　進
經理課長　黑川臺三郎
運輸課長兼自動車課長　是永英雄
電氣課長　三宅高次
工務課長　井上天次

◆第一タクシー株式會社
清水市萬世町一一ノ一一
電四八九・四九七
取締役社長　山下榮松
專務取締役　山田寛一
取締役　杉本敬一
大石巖
同　石川佐重
監査役　大石太郎兵衛
同　鈴木萬吉

清水驛前營業所
電話五三一

◆清水交通株式會社
清水市港町一ノ五六
營業所　清水驛前（電三七・五七二）
取締役社長　後藤磯吉
專務取締役　杉本幸次郎
取締役　大澤初造
同　遠藤松太郎
同　池田萬吉
同　鈴木喜重
監査役　原臺吉
同　寺田喜
同　朝比奈清

◆靜岡電鐵巡航船
清水營業所
清水市港町四ノ三六（清水波止場）
電話一四七番
主任　卜部祐龜
岩田圓一
吉田榮太郎
遠藤まさゑ

◆同自動車部清水營業所
清水市大和町五（清水驛前）
電話六四七番
主住　奥山須美雄
大澤大三
宮田實
小野澄江

◆清水市營渡船切符發賣所
清水市松井町（巴川畔）
同　三保塚間

木材

◆清水港木材株式會社
清水市富士見町一ノ九（木材ビル）
電二二四・二三九二・二三九六番
資本金　八拾萬圓
取締役社長　福島庄太郎
專務取締役　新間伊津平
取締役　高塚龜一
同　增田麟三
同　稻垣良平
同　畠山慶吉
常任監査役　村松八郎
監査役　渡邊銀作
同　川口喜久司
顧問　中村藤太郎
同　坂上政次郎
同　伴房吉
相談役　村田竹藏
同　高木彌之助
同　望月貞作
同　酒井登志郎
企畫部
部長　村松治平
企畫課長　福嶋鍼江
調査課長　勝瀨光安
小澤喜重
西田千太郎
中村源五郎
總務部
部長兼庶務課長　岡本福松
淺井語一
增田善一郎
古牧和惠
小下タマ子
鈴木ゆき
秋澤一郎
平井輝男
湯山節子
蝦名久藏
經理課長　小松澤茂
鈴木寛司
物資課長　伊藤誠
大石隆司
工務部
部長（兼）　增田麟三
製材課長　立石孝一
吉田文一
工場課長　大瀧亮一郎
小野田武平

販賣部　堀內靜夫

部長(兼)　稻垣良平
供出課長　大塚謙治
杉山彰佑
谷鐵太郎
大鹿正夫
天野弘人
若杉勇三
佐野龜之助
岩崎賢太郎
販賣課長　酒井國平
村松一郎
榊原湊太郎
井上勇
高塚武雄
森清
殿村榮吉
高木彌平

運輸課長　伊東文輔
齋藤啓夫
曾根信次
鈴木榮市
望月正次
橋本貞一

原木部

部長(兼)伐出課長　畠山慶吉
原木課長　鈴木宗一
內山太郎
殿村孫次郎
小澤鐵平
三井幸一
佐野豐太郎

◆靜岡縣合板工業組合
清水市島崎町五(電一〇三一)

理事長　望月政吉
副理事長　稻田力三
理事　野田錦一
同　森政次
同　阪上貞次郎
監事　萩原政高
同　早川市藏
專務理事　石川三樹
職員　谷塚與作
村本

同　橋本武一郎
同　井柳桂
同　坪井ミツ子

◉日本合板輸出組合
清水支部
清水市島崎町五(電一〇三一)

理事長　野田力三
常務理事　阪上政次郎
同　阪上繁
同　浦田忠藏
同　武田道明
監事　稻森儀平
同　松浦喜三郎
同　塚本三樹
同　谷村與作
若林溢枝

◆清水港製函工業組合
清水市富士見町一ノ九
電七〇五

理事長　福島庄太郎
常務理事　稻垣良平
同　伴房吉
理事　增田麟三

同　酒井登志郎
同　川口喜久司
同　新間伊津平
同　村松八郎
同　大塚辰平

◆株式會社清水合板製作所
清水市入江大曲(電六八〇)
資本金　拾九萬圓
取締役社長　阪上政次郎
專務取締役　川井義貫
取締役　川井孝太郎
監査役　阪上彊
同　鈴木與平

◆靜岡合板株式會社
清水市村松縣有埋立地
電一一二四
資本金　拾九萬圓

取締役社長　望月政吉
取締役　鈴木政七
同　宮崎通之助
監査役　鈴木榮吉
同　服部勇吉

◆日本合板協會靜岡檢査所
清水市旭町四〇
電一四六二

檢査主任　神戶輝
檢査員　齋藤敏郎
同　繁田義夫
同　森重夫
同　石井實
同　山本和夫
同　森登代司
同　大村定雄
事務員　芳村みつ

◆日本化學製板株式會社
清水市入江二五九一
電九九三番
資本金　拾八萬圓
取締役社長　櫻田與市
專務取締役　中村藤太郎
常務取締役　柴田清作
同　安本源吉
取締役　狩野信平
同　大塚尙平
同　櫻田兼吉
監査役　山田龜吉
同　櫻田音七
同　菊地忠次郎
營業部　田村重雄
齋藤久太郎
小林育男
澁谷八郎
藤下操

◆日化產業株式會社營業所
清水市入江三五七(電九九三)
資本金 十八萬圓

取締役社長 中村藤太郎
專務取締役 櫻田與市
常務取締役 柴田清作
取締役 安本源吉
同 大塚尙平
同 櫻田晉七
同 山田龜吉
監査役 狩野信平
營業部 櫻田兼吉
石野晶太郎
片平茂

◆靜岡縣林產物檢査所
清水派出所
清水市相生町(電一三七)

檢査技手 河岸幾平
同 岡垣耕作
同 栗田松治
同 太田眞一
同 坂田忠一
同 白鳥金雄
同 上原寅一
檢査員 佐野寅之助
同 本間敏郎

罐詰

◉日本罐詰統制株式會社
本社
東京市日本橋區吳服橋一丁目一ノ五國分ビル內
取締役社長 小濱八彌
常務取締役 岡田只雄
同 江副元三
同 角野七藏
同 池田重雄
取締役 新見久次郎
同 西出孫左衞門
同 中部悅郎
同 植田朋八
同 渡邊壽郎
監査役 松下高
同 小出孝男
同 飯田清雄
秘書役 內山正太嘉

總務部(一)總務課
總務部長 岡田只雄
部長代理兼課長 內山正太嘉
經理課
課長 谷尾義治
營業第一部(一)第一課
營業第一部長 角野七藏
部長代理兼第一課長 川浪綱次郎
第二課
第二課長 佐伯政治
營業第二部(一)第一課
營業第二部長 池田重雄
部長代理第一課長 山口敬次
第二課
第二課長 立花成介
企劃部企劃第一課
企劃部長 江副元三
課長 澤田正順
企劃第二課
課長 山口敬次
資材第一課
課長代理 那須潔
資材第二課
課長 村田伊德
檢査部
檢査長 佐藤勘之助
清水出張所
清水市萬世町一ノ八五
電話七一八番
丸山兼吉
尾島稔
久保田德枝

◉靜岡縣罐詰株式會社
清水市築地町二ノ二
電話九一七・六五〇・五四五番
取締役社長 植田朋八
常務取締役 井出久七
同 柴野清一
同 村上芳雄
取締役 鈴木與平
同 櫻田與市
同 山本良作
同 原臺吉
同 望月久也
監査役(常任) 小林彥太郎
同 山梨幸一郎
同 佐藤覺次郎
顧問 芝野榮七
同 片山七兵衞
同 後藤磯吉

重役陣は最も好評
大東亞戰下國家の要請に應へ
國策に卽應して靜岡縣下六十餘

ケ所の罐詰工場を打つて一丸とする所謂一縣一社の業界統合問題は農林省當局の指示以來業者は十數回にわたつて協議を重ねた結果極めて圓滿裡に進行し最後的の成案を得たので最も難點と目されてゐた重役の選任も擧つて本縣當局に委任しその裁量を待つてゐた處去る十月二十四日左記の如く極めて戰時下にふさはしき業界の中堅人物を推薦し來つた。即ち靜岡縣罐詰株式會社設立委員長たりし植田朋八氏は取締役社長として、本社運營の重任を負ふ事となり玆に資本金三百萬圓の會社は同じく二十六日清水市築地町二ノ二に本社を設けて同時に陣容を整備强化し新發足した。

取締役社長植田朋八氏は榛原郡御前崎村出身縣立榛原中學を卒へて明大商科に學び、その後三越の社員となつた事があつた大正十二年株式會社三保造船所の創立に努力し同社に勤務する傍ら水產漁獲物の加工研究に志し嘗て本縣水產試驗場の技師たりし村上芳雄氏其他權威者の指導を仰いでトンボ鮪油漬製作に成功し、昭和四年清水食品株式會社の設立と同時に社長故鈴木與平氏の傘下に於て專務取締役に就任し、愈々研讃怠らず斯業に精進した結果支那事變前トンボ鮪黃金時代を現出し、清水港輸出貿易中、製茶に次で實に第二位を占め外貨獲得に多大の貢獻する所があつた。以來蜜柑蔬菜その他十數種の罐詰を市場に送り、常に新製品の研究に專念し遂に業界今日の聲價を見るに至つたのである。勿論故鈴木與平氏の渡米販路開拓等偉大なる影の力が潛んで居つたことは周知の事實であるが、兎に角植田氏の業界に於ける幾多の功績から見て今回の社長就任は當然の歸結と見てよからう。

常務取締役芝野清一氏は清水魚河岸に名聲嘖々たる芝野榮七氏の愛婿靜岡工業の出身で靜岡食品會社々長として業界に重きをなしてゐた、同常務の井出久七氏は由比罐詰所を今日在らしめた努力家、村上芳雄氏は元本縣水產試驗場技師で水產物加工に就ては頗る造詣深く、斯界の

權威者であり、何れも植田社長のよきコンビとして前途嶄しき社運の發展を期待されてゐる。

取締役鈴木與平櫻田與市、山本良作、原臺吉、望月久也の諸氏は等しく業界の大立物人格閲歷共に申分なく監査役小林彥太郎氏は最適任者と目され同山梨幸一郎、佐藤覺次郎兩氏もこの邊で自他共に許さるべきである

兎に角縣當局の推薦は最も愼重を期し頗る好評を以て迎へられてゐる。

◉東洋製罐株式會社
清水市日之出町
電代表一二六〇

工場長　倉谷了
總務課長　斯波浩之助
營業課長　丸山秀雄
勞務課長　（倉谷工場長兼務）
倉庫課長　（營業課長兼務）
企劃課長　玉置甲子夫
製造課長　佐々木善次
青年學校長　倉谷了

◉日本輸出品包裝株式會社
清水市人船町三
電三六六

資本金　拾五萬圓
取締役社長　安藤眞佐志
常務取締役　伊藤育三
取締役　芝野榮七
同　後藤磯吉
同　平岡昌一
監査役　植田朋八
同　櫻田與市
同　阿部芳太郎
富永靜彥
後藤清次
德永虎正
堀井博邦
村松萬
矢入光夫
內藤將夫
渡邊實子
石井きく

◉社團法人日本輸出罐詰檢査協會清水檢査所

◉全國輸出罐詰業水產組合聯合會清水檢査所
靜岡縣水產試驗場內
電一三八六

柑橘、青果

◉靜岡縣柑橘輸出東亞組合
清水市東町一丁目三七
電三〇八番

理事長　佐藤覺次郎
專務理事　大石才次郎
理事總務部長　櫻田與市
理事　片山芳松
同　高田哲三
同　前田庄七
同　服部孫市
監事　平木吉平
同　山梨幸一郎

◉清水市庵原郡柑橘商同業組合
清水市東町一丁目
電七七九

組合長　佐藤覺次郎
副組合長　志田武司
同　井出久七
主事　白井勝次郎
會計　片山芳松

◉日本柑橘輸出協會
清水市東町一ノ三七
電九三〇

理事長　望月益之助
副理事長　藤田俊一
理事　大石才次郎
同　前田庄七
同　木村正次
同　東良三
同　東隆一
同　佐藤廣三郎
同　岡崎安永

◉日本青果物輸出組合清水出張所
清水市東町一ノ三七
電九三〇番

主任　加納四郎
熊谷鐵二郎

◉合資會社清水青果乾物市場
清水市入江二六四五
電話一〇〇六番

代表社員　鈴木平一郎

◉清水市青果出荷組合
マル三出荷組合
遠藤平馬

マルツカ共同出荷組合（三保塚間）
遠藤與八
マルオリ出荷組合
堀周太郎
マル五共同出荷組合（駒越）
齋藤半一郎
マルコマ共同出荷組合（駒越）
瀧戸清市

水産

◉清水市水産會
清水市役所內（電三〇〇）

會長　缺員
副會長　藤浪文藏
評議員　齋藤久藏
池田光太郎
山本幸吉
山本芳松
芝野榮七
藤田清松
片山喜作
特別議員

◉保證責任清水漁業協同組合
清水市役所內（電三〇〇）

組長　（缺員）
望月伊之助
山本芳松
小松藤作
池田光太郎
齋藤久藏

マルセイ清水市梨業組合（清水市農會）
池田光太郎
清水市石垣苺出荷組合聯合會（清水市蛇塚一圓）
丸山今太郎
マルカ共同出荷組合（宮加三）
片山龜太郎
清水市南洋柑橘出荷組合（清水市農會）
菊池友吉
蛇塚出荷組合
丸山鉾太郎
增出荷組合
缺員
野菜移出商業組合
鈴木啓作

監事　齋藤寅吉
　　堀仙藏
　　望月鶴吉
　　大村安吉
　　立花勘兵衛
　　岩崎定治
　　古郡新作
　　堀川峰吉
　　酒井久藏

職員　望月喜作
　　伴野芳藏
　　久米二次

清水市水產會駐在技術員　山本銀一
　　海野花代

◉株式會社清水魚市場
清水市港町四丁目
電二五六・二五五

取締役社長　芝野榮七
取締役　石野乙吉
同　山本幸吉
同　高山吉造
監査役　森宇吉
同　山田龜吉

貿易

◉日本貿易振興株式會社
名古屋支店滿支部清水出張所
清水商工會議所內
電話一三一七番
出張所長　守屋文太郎
總務係長　岡部馬吉
業務係長　荒井嶺一
　　牧田祐之
　　瀧田一郎
　　鍋田千代子
　　井出築子
　　川村君子

◉靜岡縣東亞貿易同志會
清水商工會議所內
理事長　鈴木興平
專務理事　守屋文太郎
　　勝木慶治
　　大多和愛子

大連在勤
常務理事支部長　林春司
　　山田道子
　　劉成禹

天津在勤
支部長　胡崇偉
　　佐藤賢作
　　盧振聲

鐵工機械

◉靜岡縣統制工業組合
清水出張所
清水市入江岡九七五
電四八五・一三六七
主任　池上政雄
　　藤井治正
　　太田茂
　　立川利三
　　北村清造
　　伏見きよ
　　早川美代子
　　大瀧淳子

◉株式會社富士製作所
本社　沼津市日之出町
沼津工場　沼津市日之出町
　　電沼津（四八三番）（一五一五番）（一三七三番）
清水工場　清水驛東海岸
　　電清水九七一、一〇七三番
東京事務所
東京市丸ノ內（丸ビル三階）
　　電丸ノ內（一九五四番）（三二六三四九番）

金本安子
木村房次郎

◉滿洲生活必需品會社
東京支社清水出張員
清水市入船町三ノ三一
國持武雄

大阪事務所
大阪市大正橋
電櫻川（64）二四〇八番
　　二七三四番

名古屋事務所
名古屋市中川區西古渡町
電話南三一六七番
取締役社長　田中清一
常務取締役　友森二郎
取締役　瀨上清高
監査役　山根清春
同　豐田武松

（各部長、課長及係長）

工作部

沼津工場長　友森二郎
清水工場長　山根清春
作業課　豐田武松
第一機械組　八十濱喜一
第二機械組　杉本英作
仕上係　石川春雄
第一仕上組　大畑建一
第二仕上組　栗田鐵次郎
清水機械組　杉山鈴平
清水仕上組（次）　大澤幸吉

技術部

部長　友森常務
第一設計課　草ケ谷千文
第二設計課　横山鐵男
研究課（次）　大石善策
檢査課　豐田監査

鑄造部

部長　山根清一
木型係　眞野濱藏
鑄造係　一陣秀雄

材料部

部長　山根監査
統制課　内藤六郎
購買課（次）　内藤統制
沼津主任　大久保博
清水主任　平川正吉
材料係（次）　瀨上正治
沼津主任　伊藤秀雄
清水主任　高柳康郎
倉庫係（次）　松田善一

總務部

部長　瀨上清高
經理課　杉山雅庸
會計課（次）　瀨上百三
東京營業所（次）　岩間雪夫
大阪營業所　三河富次郎
名古屋出張所　田村龍夫

庶務課

課長　石神津一
主任　伊藤義宗

勞務課

課長　石神庶務
沼津主任　杉山芳郎
清水主任　高木清

企畫部

部長　小西百一

秘書課

課長　野極英一
課長代理　伊藤義宗

教育課

顧問　渡邊全博士
主事　日向島吉
兵事課主任　小櫛宗一
青校　稻葉甚五平

同　横田五郎
囑託　風間浪之助

◉伊藤鐵工所

清水市清開
電話代表一三六〇・一三六一・一三六三

所長　伊藤德太郎
工場長　伊藤清
總務課主任　杉山憲治
製作課主任　白鳥章
鑄造課主任　磯井銀次郎
企畫檢査課主任　石川文雄
第二工場主任　池上平八郎
秘書兼庶務係　高坂武夫
鑄造課庶務係　伊藤彦太郎
勞務係　佐野和夫
經理係　堀場信太郎
用度係　長谷川萬次郎
會計係　望月精一
青年學校主任　鈴木恒
事務員　石原嘉一
同　瀧昊
同　阿部齊
同　石原きぬ
同　加茂すみ江
同　伏見きよ
同　西田菊江

◉清水精機株式會社

清水市江尻茶町
電三二九番

取締役社長　鈴木與平
專務取締役　鈴木清司
常務取締役工場長　萩原平八郎
取締役　櫻井源作
同　室伏勝義
同　馬場登治
同　手島秀勝
監査役　鈴木要二
工作課長　前野又一郎
工程係長　鈴木英二
檢査倉庫係長　杉山三吉
人事係長　大石友作
庶務會計係長　森山宗夫
私立鈴與工業青年學校
校長　鈴木與平

◉合資會社鈴與機械製作所

清水市入江一四〇二
電一、二三九

有限責任社員　鈴木與平
同　上中甲堂
同　入谷麟助
同　鈴與商店
代表社員　櫻井源作
工場長　手島秀勝

顧問　望月金作
　　藤田寛
　　青島鈔策
　　秋田良雄
　　江川政司
　　小松澤鑒二
　　深澤保治
　　山田重作
　　大塚昭一
現場係長　志村秀吉
　　前田忠吾
　　渡邊六郎

◉株式會社東洋機械製作所
清水市東町二ノ四六
電九七〇・一三四
取締役社長　江崎達夫
相談役監査役　清水茂樹
專務取締役　榛葉春吉
取締役工場長　杉田俊夫
取締役設計部長　柴崎平八郎
取締役鑄造部工場長　山本金作
　　同　熊谷小三郎
　　監査役　市川繁次郎
　　同　山田易
清水工場
清水市外澁川（鶴舞橋際）
電清水一三七六・一三五六
工場長　久々津庫二
青年學校長　同
事務主任　古知市太郎
工務主任　佐々木數美
購買係　大塚謙次
勞務係　秋山己之吉
倉庫係　深澤清吉
事務係　水野よね
　　大村たみゑ
青年學校主任教師　漆畑勇作

◉合資會社榛葉鑄造所
清水市愛染町
電七〇八・一三四番
代表社員　榛葉春吉

◉富士造機株式會社
東京市京橋區寶町一ノ七
電京橋五一三四—九
代表取締役　三木武夫
取締役　石川悌次郎
同　野口伊之助
同　鈴木勝
同　中島正次
同　西澤憲政

◉望月鐵工所
電話九八（港町工場）
同　三九（日之出町工場）

◉齋藤彦左衞門製作所
清水市島崎（大踏切際）
電一三七五
所主　齋藤彦左衞門

◉株式會社マルクニ鐵工所
本社
靜岡市森下町二ノ一
電靜岡（代表）二三三番
草薙工場
東海道線草薙驛前
電靜岡（代表）二六番

造船

東海道線草薙驛前マルクニ鐵工所は靜岡縣下に於ける有力なる存在として業界に重きをなし同時に工作機械メーカーとして普く知られてゐる。然して多年研究の結果完成を見たる自働タイヤル式竪軸型三番强力フライス盤はその性能最も優秀を謳はれて業界驚異の的となつてゐる本社は社長田中熊雄氏が拮据經營に任じ奮鬪の結果今日の發展を見たものであるが、田中氏は益々國策に協力して生産の擴充と設備の充實を期し、近く現工場の三倍にも及ぶ擴張の計畫を進め、なほ社員住宅百戸も同時に完成すべく非常の努力を拂はれて居り社運日に〳〵隆昌に向ひ輝しき前途の發展を約束されてゐる。

◉株式會社金指造船所
電清水二四三・一三四
電三保五三
取締役社長　金指丈吉
專務取締役　金指吉昭
取締役　伊村德平
監査役　高野武吉
　　同　上島松五郎
清水出張所
電一三八三

◉株式會社三保造船所
清水市三保
電話三保四一・五九番

取締役社長　植田猪吉
專務取締役　道家長松
常務取締役　加藤鉉一郎
取締役　遠藤茂助
同　植田朋八
同　伊藤達夫
同　村上芳雄
同　小野田喜逸
監査役　青島清一
同　增田權三郎
同　後藤助藏

◉東海造船株式會社
清水市外袖師村横砂
電話七九七・二三九七

取締役社長　小山三藏
常務取締役　加藤啓二郎
取締役　杉村一夫
同　小鹽孫八
同　櫻井新一
同　村上保郎
同　甲賀英男
監査役　杉村精一郎
同　北島虎一郎
同　長谷川基

◉清水港造船株式會社
清水市築地町三ノ六三
電話一〇七三番

代表取締役社長　森田森作
專務取締役　櫻田由右衞門
常務取締役　望月竹次郎
同　鈴木和一
同　今村可吉
同　三浦虎吉
監査役　川崎市太郎
同　石野惣一郎

電氣瓦斯

◉中部配電株式會社
清水營業所
清水市江尻本丸町一
電話四四五・四四六番

所長　岩波千春
山口易鷹
長倉茂
江川貞次郎
川崎惣作
鈴木觀一
瀨戸尾三作
成岡治作
橋本龍作
鈴木芳太郎
川口達朗
大石柄次郎
野口喜太郎
小長谷隆平
岡崎十二郎
稲葉美明
三日月清
劍持秀太郎
石野宰司
原萬雄
原儀三郎
渡邊音次郎
渡邊繁太郎
袴田德治
山田榮一
山脇定吉
片山正司
山田五一
齋藤清吉
遠藤勝五郎
池田喜作
成澤隆平
伊藤三吉
木川福次郎
高田喜三郎
杉山兼吉
山本稔造

清水變電所主任
佐野政

◉靜岡瓦斯株式會社
清水營業所
清水市相生町二一五
電話五三三番

營業所長　杉坂三郎
事務　松下金吾
角田義夫
藤村民次郎
夏目榮一
武田六郎
田中常次郎
兩角まつ
青木菊代
岩川貴美

供給係　栗原繁義
辻　龜吉
岡田庄平
風間芳郎
小久江英夫
鈴木一男
橋本明

澁川工場
安倍郡有度村澁川（電九〇七）
工場長　杉坂三郎
栗原方次
神戸忠三
佐野勇太郎
鈴木繁夫
青木勝義
風間丈平
深澤功平
大坪信一
杉山清

石炭燃料

▽靜岡縣石炭株式會社
清水市入船町三ノ一三
電一三四〇・一三四一番
資本金
取締役社長　鈴木與平
專務取締役　望月竹次部
取締役　木口波之助
同　高橋光一
同　田中太次郎
同　田中勇
同　細田善三
監査役　宮內禮道
同　鹽崎保吉
同　山田正
⊙靜岡縣石炭統制株式會社
清水市相生町一二
資本金　十八萬圓
取締役社長　鈴木與平
專務取締役　望月竹次郎
取締役　高橋光一
同　山田正
同　內藤政登
同　小鹽松太郎
同　齋藤謙治郎
同　木口波之助
同　田中太郎

同　明石爲次
同　鈴木和吉
監査役　田中勇
同　齋藤平四郎
同　田中壽之助
▽三菱鑛業清水出張員
清水市辻島崎町
電五四
松野仁
高田金六郎
▽山下鑛業清水出張所
清水市入船町
電一一八三
▽三明商事株式會社
清水市新港町
電三一二
常務取締役　內藤政登
山本宗一
▽日本石炭株式會社名古屋支店清水出張員事務所
清水市入船町三ノ一九
鹽山ビル內（電一三八八）
主任　足立盛龍
事務員　篠田一男
木村吉夫
杉山芳江
▽小鹽商店株式會社
清水市島崎町一五六
電一〇九八
取締役社長　小鹽松太郎
▽靜岡縣煉炭工業組合
清水市萬世町二ノ二
電四九七
理事長　鈴木要二
專務理事　小川完二
▽靜岡縣煉炭卸商業組合
清水市萬世町二ノ二
電四九七
理事長　鈴木要二
常務理事　小川完二
▽清水燃料小賣商業組合
清水市眞砂町電一七八
理事長　小林理一
常務理事　中村鋼太郎
▽新興燃料有限會社
清水市末廣町一二
電呼一二八九
取締役社長　杉山虎藏
常務取締役　小林理一
▽大洋石油株式會社清水出張所
清水市入船町鈴與商店內
清水市特殊石油配給所
清水市入船町（鈴與商店內）

米肥・飼料

靜岡縣石油油槽所組合
清水市入船町（鈴與商店內）

清水市港町石油配給所
清水市港町四ノ一〇
電六七三・三五六番

清水市大和町石油配給所

▽中駿肥料小賣商業組合
清水市萬世町二九
電三四五

顧問　山梨重多
理事長　志田武司
副理事長　大木廣吉
專務理事　松浦眞
專務理事　中村源吉
同　高山兵吾
常任理事　川口榮太郎
同　片山儀作
同　鈴木福治
同　田中京次郎

▽清水米雜穀小賣商業組合
清水市大和町
電四一三

理事長　田中辰次郎
副理事長　志田武司
同　西田勝造

▽靜岡縣飼料卸商業組合
清水市萬世町一ノ二四
電六四四

理事長　小川清
副理事長　杉山鐵藏
同　高橋初藏
常務理事　服部規矩郎

▽靜岡縣澱粉配給組合
清水市入船町
電二九五・七七〇

理事長　小野壽一郎
副理事長　鈴木源太郎

▽東部大豆配給商業組合
清水支部
清水市入船町
電二九五・七七〇

農事・園藝

▽靜岡縣農產物檢查吏員
清水派出所
清水市江尻實業團體內
電六一八番

農林技手　浦田明一
檢查技手　內田豐司
同　太田宗一
同　杉山繁造
檢查員　清水快作

▽清水市農會

會長　宮城島源作
副會長　杉山秀吉
職員技師　水野信
技手　田山信一
同　杉山明
同　池田留吉
同　西ヶ谷正夫
同　市農會囑託　高林長重

▽清水市農產物出荷組合聯合會
清水市農會內
電三〇〇

會長　宮城島源作
副會長　望月眞一
溫室部長　岩崎喜太郎
梨果部長　池田光太郎
柑橘部長　西井有爲知
石垣苺部長　萩原要作
蔬菜部長　石野庄太郎
露地苺部長　岩品新作
專任職員　齋藤清一

▽清水市養鷄組合聯合會
（市農會內）

聯合會長　宮城島源作
副會長　宮本庄藏
杉山清吉
三保組合長　藤浪淺吉
折戸　井柳信一
駒越　小澤清吉
下清水　山田良三
上清水　望月長太郎
南矢部　望月利作
辻　高橋五郎
不二見　青木鐐三

◉清水市養蜂組合
大村幾藏

▽大日本軍用鳩協會
靜岡縣支部
清水市清水（望月徹彌方）
電二二二五番

代表者　堀　儀一
望月徹彌
松永錦作
石野乙吉
藤波善郎
谷　寅吉
稻葉健司
大橋淳平
岩崎米吉
田淵繁夫

銀行

▽靜岡縣農機具商業組合
清水市上清水一六八
電話四三八番

理事長　長澤重兵衛
常務理事　松井角平
理事　小澤荒之助
西尾盛次郎
吉田鑛太郎
增田準治
鹽澤卯一
森田庄一
田川信三郎
西尾房吉
大石喜次郎
竹原進
監事　山口秀司
長谷川治男
加藤鐵治
村松儀一郎
望月喜作
深津欽一
宮城島輝雄
宮城島末雄
望月清
大田學
菅沼敏夫

▽靜岡三十五銀行

資本金　一五、五〇六、〇〇〇圓
取締役會長　野崎彥左衞門
頭取　中村圓一郎
專務取締役　松村鄉太郎
常務取締役　酒井嘉重
同　中津川藤四郎
取締役　尾崎元次郎
同　杉山來次
同　依田四郎
同　磯野新藏
同　內田旭
同　野崎衞七
同　鈴木政七
同　平尾源六
同　岩井保平
同　鈴木八郎左衞門
監査役　武藤作太郎
同　深澤市造
同　橋本思次郎

▽清水支店
電三五•五四二•五四三番
本店業務副部長兼清水支店長　田中穗輔
次長　鷲巢憲之助
支店長代理　谷口榮一
三保出張所　杉山勇
貸付　佐藤輝雄
預金　川口榮太郎
同（應召中）　遠藤保男
同　堀井隆四郎
同　松永清平
同　木下角四郎
同（應召中）　向實
同　川村武雄
同　岸山照代
爲替　小山光治
同　伏見清太郎
同　青島光一
同　福村正志
同　古田稔
同　鈴木よし
出納　齋藤二郎
同　鈴木俊太郎
同　花田一太郎
同　劍持義雄
市金庫　田中億鍬
同　青木久子
計算　望月みさ江
交換臺　齋藤榮子
庶務　三ツ井園子
同　大石みちゑ
同　池上光子
同　勝呂てる子
同　山川金次郎
雇員

▽江尻支店
電五六●二五五●二五一

支店長　田邊榮一
同代理　白坂進
日銀代理課　本間金造
貸付　漆畑靜治
預金　池谷源一
同　山下幹
同　佐藤鍵四
同　百瀨雅一
同　澁谷浩一
同　谷進
爲替　內海正太郎
同　大石堅一
出納　小西重兵衛
同　山本誠
計算　池上新吾
事務員　山田貞枝
同　長澤光江
同　井上みよ子
同　望月譽志惠
同　小川漾子
同　若松小夜子
小使　大島英治

志茂町支店
電三〇七番

支店長　鹽津眞一郎
支店長代理　長阪湜
出納　篠塚洗耳
預金　葉山好雄
同　千葉清作
爲替　島野貫司
計算　水野かほる
事務員　戸塚一江
同　鈴木コウ

▽株式會社駿河銀行
本店　沼津市本二一一番地ノ甲
電八〇●八一●八二●八三●八四番
資本金　六百五拾萬圓
取締役頭取　岡野喜太郎
專務取締役　岡野豪夫
常務取締役　稻葉宗
取締役　脇田信吾
同　穴水熊雄
監査役　守山謙
同　鈴木與平

▽清水驛支店
電一七〇●二八六

支店長　望月謹爾
同代理　栗田清
貸付　黑田準平
出納　伊藤龜吉

爲替　眞田保太郎
同　鈴木博
預金　彦山清子
同　神戸とし
同　小田美代子
預金　服部いね子
計算　片平八重子
受付　杉山美佐子

江尻出張所（電二五四）
主任預金　深澤卯兵衛
貸付　山梨千三
預金　風間花子
貯金　神戸ひろ子

飯田出張所（電四〇三）
主任貸付　風間浪之助
預金　鈴木實
同　渡邊久子

庵原出張所（電一三）
主任貸付　太田可吉
預金出納　山梨順太郎
預金　今井やす
貯金　牧田芳枝
預金　彦山織江

清水支店
清水市港町一丁目八
電八三八番
支店長　栗田重夫
同代理貸付庶務　堀辰吉
貸付　鈴木馨
爲替　芝田敏郎
同　望月貢
出納　栗田儀平
預金　遠藤大吉
計算　鍋田フサ子
預金　末吉スミ江
定期預金　川村ふみ江
預金　河野光惠
山口玉子
受付　關和子

三保出張所主任　伊藤榮太郎
預金　杉山清一
駒越出張所主任　三木作次郎
預金　伴金六
井田操

入江支店（電一三五）
支店長　坪井敬司
貸付　望月晴二
爲替定期　深澤花子
預金　彦山愛子
計算　石川富子

▽株式會社伊豆銀行
本店　三島市一二五六番地
電話三島一〇番（代表）
資本金　八百三十三萬圓
取締役頭取　廣田傳一

清水支店

清水市港町一ノ六
電話七七一番

支店長　藤江千之
支店長代理出納　秋山福藏
預金　國持正一
爲替　宮城島敏雄
貸代　松田茂
預金　高藤喜代子
計算　西脇あや子
貯金　窪田登志子
庶務　杉山千惠子

江尻出張所
清水市江尻魚町
電話八〇番

支店長代理主任　鈴木峰佐久
貸付　刈和澄枝
預金　坪井艶子
貯金

▽株式會社駿州銀行

清水市仲濱町四番地
電話一七三・五〇三・七一七番

資本金　二百五十二萬圓
取締役頭取　和田靜三
常務取締役　杉山亮太郎
同　原弘
營業部主任　瀧重藏
出納　秋山國太郎
庶務主任　小林仁三郎
貸付　間瀨忠四郎
預金　瀧川繁雄
爲替　西澤完
貸付　金丸清治
預金　芦川滿喜之
同　野々山俊雄
爲替　桑原謙二
同　植松正男
出納　大瀧芳子
庶務　山田綾子
同　今井君子
計算　西方久江
預金　望月久江
同　植野ちよ子
同　平野源一
同　岡田幸男

清水支店（電四五二）
支店長　山田重多

美濃輪支店（電七六九）
支店長　川島剛

入江出張所（電三一一）
主任　福島猛

三保出張所（電三保三七）
袖師支店（電六四二）
支店長　宮城島孝

庵原支店（電庵原九）
支店長　望月順作
鈴木茂男

飯田支店（電四八四）
支店長　瀧川學二

興津支店（電一六）
支店長　木月昌川

由比支店（電二〇）
支店長　原宙一

蒲原支店（電一四）
支店長　雨宮周司

本町出張所（電三一）
主任　澤西登男藏

富士川出張所（電六）
主任　長谷川弘

岩淵支店（電一〇）
支店長　望月宙一

松野支店（電　）
支店長　望月昇

保健厚生

▽清水市醫師會

内科　岩淵明治
外科、レントゲン科　伊藤博
眼科　池田敏貞
産婦人科、肛門病科　岩根恒吉
眼科　花田祐教
外科、肛門病科、花柳病科、皮膚科、レントゲン科　堀口義次
小兒科　大原傳次郎
小兒科　大林皓
小兒科　太田鋼三
内科　神山源治
小兒科、内科、肛門病科　加藤亀良
眼科　吉川三作
産科、婦人科　田口初吉

内科　瀧戸直内
皮膚科、泌尿器科、肛門病科　高月晋
内科　竹内俊一
内科、小兒科　曾根織造
耳鼻咽喉科、内科　宗かん
産科、婦人科　成島貫一
内科、小兒科　長澤金治郎
内科、小兒科　村手雄太郎
耳鼻咽喉科　馬越亮
内科、外科、産科婦人科　中村宗之助
皮膚科、花柳病科　薄場武
内科、レントゲン科　野澤廣行
外科、耳鼻咽喉科　山田昌榮
産婦人科、小兒科　松井壽次
内科　古田弘平
眼科　藤井丈之助
内科、小兒科　高良武春
皮膚科、花柳病科、泌尿生殖器科　寺尾幸司
内科、産科婦人科　安部良白
皮膚科、泌尿器科　坂井貞三
産婦人科、外科　木村鼎
内科　齋藤友三
内科、小兒科　毛受雄三郎
同　宮原顯次
同　宮原齊
内科、小兒科　宮原和夫
耳鼻咽喉科　志村義三郎
内科、眼科、外科　鹽崎義郎
内科　杉本良雄
内科　杉江善次

内科、小兒科　鈴木百太郎
外科、内科　杉山好次

役員

會長　山田昌榮
副會長　成島貫一
理事　瀧戸直内
同　木村鼎

▽保證責任醫療利用組合聯合會清水更生病院
清水驛前（電二一九）

▽清水簡易保險健康相談所
清水市入江（電三〇二）
醫學博士　野澤廣行

▽清水醫師會看護婦養成所
電一〇八五
主事　木村鼎
講師　下山季治
同　岩根恒吉
書記　鈴木貞司

▽清水市庵原郡齒科醫師會
會長　五十嵐準
副會長　田村金司

▽清水市產婆會
電八七三
會長　成島貫一
副會長　河野かつ

▽日赤清水委員部
清水市役所內
委員長　山田勝四郎
副委員長　佐藤繁一
收入委員　渡邊房太郎
委員　杉浦確
同　程島定彦
同　下里龍夫
事務委員　伏見誠作
同　吉野常太郎
同　岩崎銳成

▽清水市衛生組合
清水市役所內
組合長　山田勝四郎
副組合長　山田昌榮
佐藤繁一
幹事長　杉浦確
幹事　伏見誠作

▽清水市家政婦會組合
組合長　荒井竹治
會計　遠藤いよ
縣聯合會常務理事　河野一二三
同理事　荒井竹治
組合員

清水家政婦會
會　長　安本いそ
入江岡一、〇六九　電八一九

双葉家政婦會
會　長　河野一二三
江尻小芝町七二電二四九

昭和家政婦會
會　長　荒井竹治
江尻小芝町九三電九二七

遠藤家政婦會
會　長　遠藤いよ
江尻鍛治町一一九電一一五

十字堂家政婦會
會　長　柴川むら
清水市上町一ノ七九電二三五九

文化家政婦會
會　長　松永とき
電四四三(呼)

▽看護婦會

清水看護婦組合
會　主　長谷川貞子
電七八九

清見潟看護婦組合
會　主　梅澤百合子
電九四五

明治看護婦會支會
支　主　會　外岡ため
電三一六

愛生看護婦組合
吉田みさを
(電呼六七六)

株式會社清水衛生舍
清水市相生町七七(電七一五)

本社が創立以來清水市の保健衛生に多大の貢獻をなして來た事は既に社會周知の事實であるが同社は更らに本市の發展に即應し陣容を整へ設備を充實して清潔なる都市建設をめざして活動してゐる常務取締役長谷川一郎氏は更らに清水署管内自家用貨物自動車組合を結成し組合長として戰時下タイヤーチューブ並に揮發油の適正なる配分に努力されてゐる。

胃腸によく効く
下部鑛泉
取次販賣所
清水市仲濱町
電話七一九番

産業組合

▽保證責任靜岡縣購買販賣利用組合聯合會(縣產聯)

靜岡市江川町
電代表四〇四〇番

會　長　森田豐壽
副會長　高林兵衞
專務理事　望月儀一
同　藤原操平
同　野田泰弘
理　事　高橋誠太郎
同　秋山忠平
同　山口忠五郎
同　伊藤連司
同　丸尾長治郎
同　細川幸一
同　服部亀吉
同　岩間芳雄
同　堀池潔
同　飯田充雄
同　柏木八郎左衞門
監事(常任)　織田欽吾
同　鈴木孫作
同　鈴木保
同　中根秀治
同　豐田鶴吉

清水支所
清水市日之出町一丁目三ノ一
電話一〇八〇——一〇八四
九二六・五六六・七三二番

支所長　望月正己
柑橘部々長　塚口男作
清水現場主任　日下威織

▽有限責任清水市信用組合

清水市相生町二一八
電四四〇・四七七・二、二四八

組合員數　貳千六拾壹名
預金總額　金四百五拾萬圓

組合長理事　小川隆三
專務理事　小川篤三
常務理事　森彦太郎
理　事　山崎重多
山本量平
石野源七
遠藤茂助
兼岩靜衞
監　事　石野乙吉
佐津川彌作
望月利雄

竹内與吉郎
青木理吉

▽保證責任不二見信用販賣購買利用組合
清水市村松一〇九七
電六四五
組合長理事　大石新太郎
專務理事　大橋清

同　井上爲吉
同理事　岩崎啓次郎
同　鍋田邦次
同　渡邊延太郎
同　齋藤半一郎
同　山本良策
同　望月愛治
監事　丸山英一

其他商工業組合

清水食料品小賣商業組合
理事長　守屋文太郎
常務理事　竹内理吉
同　小柳音吉

清水家庭用雜貨小賣商業組合
理事長　池上和市郎
常務理事　橋川光三郎

同　池田平八郎
同　柴田平作

三保信用購買販賣利用組合
清水市三保(同三保一七)
組合長理事　遠藤平馬
常務理事　遠藤與八

清水燃料小賣商業組合
理事長　小林理一
常務理事　中村鋼太郎

靜岡縣海苔卸商業組合
理事長　片山芳松
專務理事　櫻田與市
常務理事　庄司光夫

同　石野乙吉

清水纖維製品小賣商業組合
理事長　黑田德次郎
常務理事　三保喜太郎

靜岡縣印絆纏商業組合
理事長　增田八郎治

清水野菜移出商業組合

理事長　鈴木啓作

清水醫藥品小賣商業組合
理事長　眞長兵衛

清水庵原印刷製本工業組合
理事長　磯田長作

靜岡縣船具商業組合
理事長　片山七兵衞

靜岡縣船舶電機工業組合
理事長　村田達平

清水菓子工業組合
理事長　望月爲吉

清水庵原製靴工業組合
理事長　榊原仙太郎

靜岡縣農機具工業組合
理事長　長澤重兵衞

靜岡縣釣魚具工業組合
理事長　村上貞治

清水洗染クリーニング商業組合
理事長　村田太十

清水庵原豆腐小賣商業組合
理事長　三科武藏

清水古物商組合
組合長　豐島豐

旅館・料理・藝妓・貸座敷

▽清水旅館業組合
組合長　出口安太郎
副組合長　寺尾熊次郎
組合名　組合長名
清水料理店組合　稻岡一男
清水藝妓屋組合　久保田せん

清水西洋料理食堂組合　井上幾太郎
清水鮨商組合　柴田篤太郎
清水蕎麥商組合　大瀧松藏
清水小料理組合　大原利一

清水睦料理組合　土屋兼次
清水貸座敷業組合　高田璋一

土木建築

▽株式會社竹中工務店
靜岡出張所
清水市末廣町（電一、二四三）
主任　田代刀市
庶務　矢澤米吉
日本輕金屬清水工場
竹中工務店作業場
電蒲原一五・一八
工事長　大內二男
工事主任　岡田俊夫
同　岩崎萬治郎
庶務（兼務）　矢澤米吉
日本輕金屬清水工場
竹中工務店作業場
電三保四三
工事長（兼任）　遠藤康彦
工事主任　齋見昌平
庶務主任（兼任）　那波桂一
靜岡カミシ工事
竹中工務店作業場
電靜岡四、二二一
工事長　遠藤康彦
工事主任　染川壽一
經理部主任　那波桂一
見積調査部主任　庄司嘉策
靜岡松坂屋
竹中工務店作業所
電靜岡三、九八六
工事主任　鈴木誠一郎
靜岡日本銀行營業所
竹中工務店作業所
電靜岡四二四
工事主任　牧野衛
靜岡日本銀行行舍
竹中工務店作業所
工事主任（兼任）　鈴木誠一郎
芝浦工作機械株式會社沼津工場
竹中工務店作業所
電沼津一、五九〇
工事主任　橫田成美

▽株式會社間組清水出張所
清水市三保貝島
電三保三五
主任　長谷川勇
工事主任（一部）　加藤德太
同（二部）　大森昇
會計　大塚泰司
庶務　飯豐良司
本社
東京市赤坂區青山南町一ノ一
電赤坂84代表三七六—三七〇

▽靜岡縣土木建築
工業組合清水支部
清水市入江一三二七
電八八四
支部長　櫻井康弘
齋藤豊藏
吉野勝雄
西ヶ谷貞次郎
增田勇藏
青木理吉
大石和三郎
谷寅吉
望月清次
鹽津耕一
古郡久作
齋藤仙太郎
堀谷又三
渡邊俊四郎
望月甲三
杉山卯八
渡邊孝
水野幸作
齋藤平八郎
海野良作
西ヶ谷秀次
薩川龜太郎
佐野直作
北村直太郎
增田英一
米澤良之助
大木實
堀池佐太郎
清水留吉
佐野仙太郎
山田兵作
山梨清七
松浦德藏
渡邊新作
小野勘次郎
太田島萬太郎
井上與作
酒井龜三
伊藤嘉吉
青木宗正
北條長一郎
澤野儀作
松永清作
青木柳一
小笠原虎吉
鈴與商店
代表社員　鈴木與平
望月義郎
瀧藤作
飯島政一
書記　金子儀之助

▽靜岡縣瓦共販株式會社
清水市眞砂町九一
電四七四
取締役社長　原臺吉
專務取締役　渡邊庫太
常務取締役　川口勝太郎
取締役　石原榮作
同　野口芳太郎
同　寺田德三郎
同　名倉銀次郎
監査役　山本勝次郎
同　河合大次郎
同　油井清兵衞

▽清水組出張員詰所
清水市清水上二丁目
電一〇〇番　一〇六番
百々惠作

特殊會社・工場・商店

▽靜岡縣瓦工事業組合
清水市巴町一〇四
電六九一番
理事長　杉山德次郎
常務理事　兼岩元城
理事（會計）　大野銀藏
同　岩崎理佐久
同　遠藤榮吉
同　鈴木辰次郎
同　鈴木林平
同　山本惣平
監事　中村八郎
同　村松勇太郎
同　內田馬壽
相談役　原臺吉
同　久保田松右衞門
同　萩原新作
同　橋本玉藏

▽土木建築請負合資會社
三大工業社
清水市入船町
電五七七・三七〇
代表者　古郡久作

▽土木建築請負小笠原組
清水市萬世町電停前
電一〇六一
主任　小笠原虎吉

▽日本發送電株式會社
本社
東京市小石川區小石川一ノ一一
社長　池尾芳藏
清水火力建設所
所長　技師　國重榮一
事務係主事補　荒木美登里
電氣係技師　山根了釋
汽機係同　山田敏夫
汽罐係同　自見兄也
土木係　木戸皎
建築係　市毛健
清水發電所（電一三五九）番
主任　鶴田四郎

▽日本鋼管株式會社
清水船渠工場
本社
東京市趨町區丸ノ內一ノ二
海上ビル
取締役社長　白石元治郎
副社長　淺野良三

▽日本輕金屬株式會社
本社
東京市芝區田村町
社長　中川末吉
清水工場
工場長　取締役
理學博士　西田傳五郎
副工場長兼製造課長　笠井克也
工作課長　橋本猿三郎
勞務課長　齋藤助續
經理課長　國俊正生
試驗課長　工場長兼任
青年學校長　同

▽東亞燃料工業株式會社
本社
東京市麴町區有樂町（東日別館）
社長　橋本圭三郎
清水工場
工場長　降旗三七男
總務課長　南部政二
事務取扱　岡本謹吾
工作課長　山田稔
會計課長　岩崎甲藏
製油課長（代理）　佃豐之

▽東亞燃料研究所
所長　降旗三七男
事務室主任（事務取扱）　岡本謹吾
研究室主任　古賀雄造
佃豐之
岩間德雄

▽豊年製油株式會社

本社
東京市麴町區丸ノ内八重洲ビル
社長　杉山金太郎
清水工場
取締役工場長　原田三左衞門
經理部　栗本謙吾
池田滿次郎
伊奈房吉
池川覺太郎
和泉薫
加藤泰三郎
村岡昌太郎
山梨市太郎
山本光男
城戸誠一
日比房吉
宮崎邦藏
西尾政一

工務部
鈴木袈裟文
加藤兵治
岩崎彰仁
尾田信太郎
渡邊武市
山田三子男
横田幸雄
長濱庄次郎
馬瀨菊松
齋藤實郎
村松政太郎
佐藤照義
三浦三雄
杉山鍵吉
鹽谷精
吉川政男
宮崎泰顯
櫻田誠一

▽株式會社巴川製紙所

本社　清水市入江三四六
資本金　三百萬圓
清水工場
清水市入江三四六
電清水六六六・六九八
用宗工場
靜岡市用宗二一〇
電靜岡三、二〇九・用宗一〇〇
東京事務所
東京市京橋區京橋一ノ六
電京橋五五三・五、〇五三
取締役社長　井上源之丞
專務取締役　井上篤
常務取締役　風見源三郎
取締役　松本新太
同　岡田顯三
監査役　中内鉉一郎
囑託　井上光治

職員
清水工場
高橋清
熊倉廣次
佐野銀次郎
原田富男
藤津莊輔
鈴木昇
植村章
古松幹男
木下武次
大榎季雄
久保田銀藏
片平市藏
松永清次
山本良一
一ノ宮芳夫
横山三郎
郷博之
横澤弘
松永正
小田切かほる
坂本和子
澤井かず枝
野中智枝

用宗工場
溝口政雄
鈴木乙作
西谷四郎
住卓三
湯山信一
吉澤彌一
川口保男
久保田實
岡明
鈴木春雄
青山泰介
山田春吉
天野四郎吉
山田清
馬場正加壽
三浦利一
遠藤昌治
岡田好夫
藁科武次
西河勇作
八木政雄
福島昌平
青木鋭太郎
渡邊宇三郎
望月彌作
野中宗吉
石田美津己
倉田藏
佐野淺男
前田鑛一
相川房次郎
池田隆一

提坂義夫
加藤良猪智
石川要一
鈴木啓三
增田庄一
市川初子
渡邊竹子
杉山みほ
龜山敏子
鈴木さち
增田かね
久保山千江
鹽澤君江

東京事務所

八代武次
渡里今市
中島保
田中保造
白井利武

八木鐵夫
小杉次夫
金田正一
室田元行
小林暉
北條外夫
加藤一郎
横田藤四郎
猪瀨弘
齋藤由雄
松田昇雄
阪喜一郎
岩瀨俊子
遠藤きみ子
廣川良子

▽綾羽クツシタ株式會社

清水市外北脇五〇〇
電〇四・五九一
資本金　貳百貳拾萬圓

取締役社長　功刀寅次
事務取締役　井上周吉
取締役　伊藤忠兵衛
同　井上富三
同　居初寛一郎
同　豊田利三郎
同　松岡潤吉
同　岸本吉左衛門
監査役　河野通久郎
同　笠原庄吉
監査役　村西芳介
同　吉川兵次郎
支配人　小島祝
工場長　青木良成
營業課長　島田規矩雄
庶務經理課長　藤井淳治
用度課長　武山信一
撚糸課長　和田重樹
事務課長　下江昌三

靴下課長　藤田正
莫大小課長　岩崎善彌

横濱營業所

横濱市中區住吉町二ノ二六一
横濱輸出莫大小同業組合ビル内

◉大阪石綿工業株式會社

本社
大阪市東淀川區中津濱通三
資本金　百萬圓
取締役會長　金子喜代太
專務取締役　藤尾仙次
本宮久吉

清水工場

清水市駒越五二〇
電清水一〇三・二二〇・三八
工場長　川島誠
會計主任　吉田清次郎
庶務係長　寺尾株太郎
製造係長　奥田愼一

◉鶴見窯業株式會社

本社　横濱市鶴見區
資本金　貳百萬圓
社長　松本幹一郎

清水工場

清水市三保（電三保六八）
工場長　藤澤洋太郎

◉日產金屬工業所

清水市折戸圓上坊
本所は清水市折戸圓上坊折戸灣に面し敷地一萬二千餘坪は既に買收を了し近く工場新築の運びとなつてゐる。經營者は東京市品川の濱崎朝恭氏である、

◉長島化學製品所

清水市入江二八二〇
電一七三・八七〇
主所　長島銀藏
本店工場長　長島幸平
庶務部　平岡長三郎
經理部　原田豐
販賣部　久保三郎
入江研究室　今井敏男
青山研究室　青山忠雄
橋本研究室　橋本宗明
四方研究室　四方藤次郎
試驗部　久木元豊
製品部　栗田金太郎
職工長　岡村睦太郎
大阪支店長　鈴木榮喜
東京出張所主任　原田博
名古屋出張所主任　山田義次

◉清水塗裝工業所

清水市入江二三五ノ一八
電三三三
取締役社長　長島銀藏
專務取締役　長澤重兵衛

常務取締役　阿南義雄
取締役　後藤磯吉
同　山本佐喜藏
同　櫻井康弘
監査役　井上幾太郎

◉三井物産清水出張員
清水市港町三ノ四
電　五九・六三五・六三六

庵原郡

各種團體

首席　川崎倉生
同　杉山弘藏
代理　吉屋昇
二瓶和男
鐘本常治
鹽澤惠吉
松田嘉雄
風村道太郎

風間日出雄
高井俊子
田中みつ江
田山靜枝
青木力藏
栗田信夫

◎町村長會
會長　吉川禎太郎
副會長　石川烈三
◎大政翼贊會庵原郡支部

常務委員　片平七太郎（郡翼贊壯年團長）
同　望月喜代藏（內房村支部長）
同　望月隆策（松野村支部長）
同　角替和一（前常務委員）
同　井上實三（蒲原町助役）
同　平野芳政（由比町翼贊壯年團長）

同　望月佐一（前常務委員）
同　伏見浩四郎（郡翼贊壯年團理事）
同　松永益（前常務委員）
同　望月喜多司（前常務委員）
同　田中義太郎（兩河內村壯年團副團長）
同　大內要吉（袖師村支部長）
同　吉川藤作（飯田警防團長）
同　片平義一（高部村產組長）
同　山田與作（郡翼贊壯年團副團長）
◎大政翼贊會庵原郡町村支部長
內房村長　辻村保
松野村長　望月陸策
富士川町長　勝呂重作
蒲原町長　宇佐美謙
由比町長　石川烈三
小島村長　堀池潔
兩河內村長　望月寬一
庵原村長　片平七太郎
袖師助役　大內要吉
飯田村長　吉川禎太郎
高部村長　久保田道太郎
西奈村長　玉川福太郎
興津町長　木下新作
◎庵原郡翼贊壯年團
名譽團長　吉川禎太郎（郡支部長）
團長　片平七太郎（郡聯合分會長）
副團長　平野芳政（郡常務委員）
同　山田與作（西奈村助役）
理事　國持史郎（郡常務委員）
同　角替和一（郡常務委員）
理事　望月佐一（郡常務委員）
同　望月喜多司（郡常務委員）
同　伏見浩四郎（郡常務委員）
同　近藤治郎（高部產組專務）
同　藤澤矩衞（蒲原町壯年團長）
同　佐野源次（袖師村壯年團長）
同　山本元一郎（兩河內村壯年團長）
顧問　大藤直一（壯年團縣副團長）
同　柴田忍（郡町村長會長）
◎鄉軍聯合分會
會長　片平七太郎

副會長　平野芳政
同　杉山猛
常務參事　伏見浩四郎
內房　宇佐美勘一
松野　望月國利
富士川　渡邊龜藏
蒲原　望月冷
由比　平野芳政
興津　杉山猛
小島　大澤仲平

各町村職員

◎興津町
町長　木下新作
助役　岡本作平
收入役　秋野實
警防團長　淺野勉
郵便局長　松永益
國民校長　宮本均之
◎由比町
町長　石川烈三
助役　芦澤靖
收入役　和田源一
警防團長　池田英夫
郵便局長　中村鐵太郎
町屋原國民校長　山內準平
北田國民校長　江馬巖三
入山國民校長　鈴木佐一
◎蒲原町
町長　宇佐美謙

兩河內　荒井六郎
庵原　乾彌之助
袖師　佐野源次
飯田　風間浪之助
高部　寺田藤吉
西奈　玉川保治
◎庵原郡青少年團
團長　柴田忍
副團長　平岡文雄
同　宮本均之
事務局長　宮本均之
總務部長　山內準平
青年部長　天野岩雄
女子青年部長　影山登志次
少年部長　鈴木啓太郎
事務主任者主事　加藤正雄
◎大日本婦人會庵原郡支部
支部長　西ケ谷阿茶
副支部長　和田つや子
同　若槻はる子

助役(名譽職)　井上實三
同(有給)　佐藤金太郎
收入役　細野政一郎
警防團長　高橋常吉
郵便局長　佐藤靖一
驛前郵便局長　中島憲一
國民校長　天野岩雄
◎富士川町
町長　勝呂重作
助役　齋藤邦雄
收入役　中川國兵
警防團長　齋藤金平
郵便局長　中村鐵太郎
國民校長　原田良之輔
◎袖師村
村長　柴田忍
助役　大內要吉
收入役　小花亮一
警防團長　市川雄二郎
郵便局長　小長井由作
國民校長　影山登志次
◎飯田村
村長　吉川禎太郎
助役　兼高均
收入役　風間才吉
警防團長　吉川禎太郎
郵便局長　杉山武七
國民校長　杉山武夫
◎庵原村
村長　片平七太郎
助役　柴田昌年
收入役　佐藤一郎
警防團長　望月惣五郎
郵便局長　山梨義雄
國民校長　佐藤宗孝
◎兩河內村
村長　望月寬一
助役　山本元一郎
收入役　池田惣作
警防團長　深澤陸太郎
河內郵便局長　平垣太
和田島國民校長　山田義郎
中河內國民校長　平岩東一
西河內國民校長　伊藤嘉喜次
◎松野村
村長　望月陸策
助役　小川槐一
收入役　宇佐美晴雄
警防團長　佐野義策
郵便局長　清水雅信
國民校長　森隆藏
◎內房村
村長　辻村保
助役　望月矯一郎
收入役　鈴木重雄
警防團長　渡邊金男
郵便局長　森亮太郎

國民校長　谷津倉寛一

◎小島村

村長　堀池潔
助役　北條照信
收入役　鈴木茂雄
警防團長　片平清悟
小島郵便局長　深澤九郎司
宍原郵便局長　鈴木主一
小島國民校長　影山明吉
小河內國民校長　大熊尊彦
宍原國民校長　加藤新一郎

◎高部村

村長　久保田道太郎
助役　藤牧棄次郎
收入役　梅崎尾桂
警防團長　久保田道太郎
國民校長　鈴木啓太郎

◎西奈村

村長　玉川福太郎
助役　山田與作
收入役　內野愛吉
警防團長　山田與作
國民校長　伊藤一

庵原郡實業團體

◎庵原郡農會

清水市江尻小芝町七五
電三四七・六一七番

會長　堀池潔
副會長　天野謙一
幹事　國持史郎
同　片平義一
技師　平松久一郎
技手　吉川勝壽
同　岡本浦八
同　山下孫市
同　山田達夫
書記　中村正善
同　松山成子

◎庵原郡清水市柑橘同業組合

組合長　加藤和作
副組合長　角替和一
評議員　牧田泰司
同　青木源作
同　天石信一郎
同　望月善左衞門
同　井上爲吉
同　岩川睦藏
同　山本愛太郎

技術員　塚口國次郎
同　吉川孫作
同　花澤政雄
同　望月友吉
同　小泉兵一
同　北榮一
同　望月堅一郎
同　山本森俊
事務員　天野泰仲

◎庵原郡清水市柑橘統制出荷組合

組合長　加藤和作
副組合長　國持史郎
職員　天町泰伸
同　藤田清松
評議員　石切山章
同　堀邊延太郎
同　昌直一郎
同　坪井音吉
酪農主任　山田與作
技術員　片平季男
同　遠藤榮松
書記　勝又直司
同　望月榮太郎
同　細川貞藏
同　牧田ちよ
同　原金藏
同　牧田貞二

◎庵原郡清水市茶業組合

組合長　柴田忍
副組合長　久保田道太郎
常務委員　竹澤武
同　平岡文雄
同　長澤虎吉
同　吉川禎太郎
同　中村安太郎
同　山田與作
技師　飯塚玉雄
技手　蒔田久一

◎中駿畜產組合

組合長　瀧貞吉
副組合長　石川濱吉

其他組合團體

◎庵原郡水產會
由比驛前（電二三）
會長　小林庄藏
副會長　薩川寅吉
主事　品川寛

◎靜岡縣紙糸工業組合
庵原郡興津町
理事長　井出辰三
專務理事　手塚弘保

◎保證責任興津町信用購買販賣利用組合
興津町仲宿四二三ノ五
電一四七番
理事長　加藤和作
專務理事　塚口勇作
常務理事　石川萬平
同　小泉兵一
理事　青木信一郎
高山德太郎
柳澤友次郎
山梨利平
伏見多作
岩城勝太郎

◎保證責任蒲原町漁業協同組合
庵原郡蒲原町字小金
電一五三・二八
組合長理事　小林庄藏
常任理事　戸塚善助
同　磯部佐太郎

甲州
下部鑛泉販賣
清水市仲濱町二一七
【電七一九番】

興津町信用販賣購買利用組合
庵原郡興津町（電話一四七番）
組合長理事　加藤和作
專務理事　塚口勇作
常務理事　石川萬平
同　小泉兵一
理事　青木喜一郎
高山德太郎
柳澤友次郎
山梨利平
伏見多作
岩城勝太郎
深澤清
同　小泉忠作
同　內藤半治
同　內藤恭太郎
監事　塚口吉藏
同　青木庄作
同　市川忠次郎
同　小沼次作
同　內藤宣夫
同　杉山謹一
八木間支所（電一五三）
青木喜一郎
中宿支所（電二二五）
高山德太郎
清見寺支所（電一四八）
山梨利平
洞支所（電四）
岩城勝太郎
薩埵支所（電二五五）
石川萬平
承元寺支所（電六二）
內藤半治
谷津支所（電一〇二）
小泉兵一

保證責任蒲原町漁業協同組合
庵原郡蒲原町
電話一五三・二八番
組合長理事　小林庄藏
常務理事　戸塚善助

株式會社伊豆銀行蒲原支店
支店長　小林庄藏
庵原郡蒲原町
電話十一番

昭和十七年度

重要行事

靜岡地區機帆船海運組合

清水市港町三ノ四七
電話 一、三九一番

理事長 鈴木與平
常務理事 幸坂愼

昭和十七年度行事

由比町大火

一月四日 庵原郡由比町大火　全半燒二十八戸

手つなぎ地藏開眼

三月二十四日 孝子高岡姉妹手つなぎ地藏開眼式營まる。

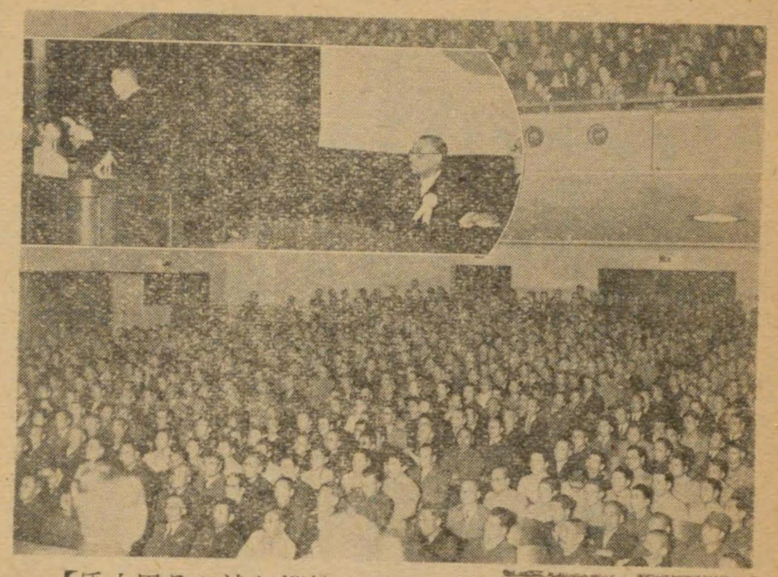
木材會社の設立

四月一日 本縣下の木材業者は八會社に統合され清水市並に袖師村を地區とする清水港木材株式會社は資本金八十萬圓を以て結成創立總會を擧行參加業者百三十七名に及んだ社長には福島庄太郎氏推さる。

印度獨立激勵會

四月二十一日 印度獨立の志士ラス・ビハリ・ボース氏激勵會を世話人代表田中清一氏司會の下に靜岡市公會堂に開催

沼津市株式會社取締役社長田中清一氏は滿身熱血の人常に烈々たる鬪志に燃へ所信に生き所謂「大膽細心」の心構へを信條として事に處し凡てを皇國奉仕の一念に捧げてゐる。即ち日夜航空機用工作機の研究製作に精進し生產の增進と設備の擴充を期し以て國家の要請に應へ、鐵工報國の大旆の下に千有餘の從業員と聖汗の喜びを共にし一致團結火の玉となつて奮鬪をつゞけられてゐることは普く社會周知の事實である。



【氏中田るぶ述を拶挨と場會るむ極を會盛は眞寫】

田中氏は頗る感激性に富み俠氣に厚く彼の靜岡市大火の際は率先救援隊を出だし更らに義捐金一萬圓を贈つたことは未だ吾人の記憶に新になる所で、その他庵原中學の建設に巨費を寄せて協力を惜しまざる等社會公共事業に盡瘁された例は枚擧に遑がない。

大東亞戰下に在つては愈々皇道精神に透徹し赫々たる戰果に感謝して陸海軍に多額の獻金を行ひ興亞觀音建立の報に進んで淨財五千圓を寄附し就中眞珠灣の特別攻擊隊九軍神の崇高なる行動に對し感激の極みに於て九千圓を遺族に贈り心から英靈に餞けしたのであつた。

戰果印度に及び獨立の機運起るや時を移さず志士ラス・ビハリ・ボース氏と遠山滿邸に於て會見し、運動資金の一端として金一萬圓を同氏に手交はした。

ボース氏は貴下の樣な名もない人から多額の運動費を頂かうとは夢想だにもせなかつた。日本の人達は眞に擧つて印度の獨立を支援して呉れるのかと田中氏の手を堅く握り切々と泣いて喜んだといふことで當時東京各新聞はこの義擧を全國に大々的に傳へた。

昭和十七年四月二十一日田中氏を世話人代表とし同氏司會の下に靜岡ボース氏激勵會が靜岡市公會堂に催され、藤岡知事、中島地方裁判所長、小川沼津、樋口熱海、花島三島の各市長、田中靜高校長、中村清水市會議長その多名士多數列席聽衆實に數千文字通り滿場立錐の餘地なき盛況裡に田中氏登壇

「國民的激勵を要す」の題目下に滔々一時間に及ぶ挨拶を行ひ壇上熱すれば壇下亦熱するの情景を繰り展げた。次で稻森靜岡市長、木村日紀氏當のボース氏花島、小川、樋口等の諸氏交々熱辯を揮ひ聽衆に多大の感銘を與へ嵐の如き絶讃を浴びてこの歴史的大會の幕を閉ぢた。因に田中世話人代表の挨拶の大要並にボース氏壯行の餞けとして卽興詩朗吟は左の如くである。

國民的激勵を要す

今回、印度獨立聯盟總裁ラス・ビハリ・ボース氏の激勵會を開催するに當りまして、本會の世話人を代表致しまして、皆樣に御挨拶を申上げたいと存じます。印度獨立運動激勵の熱情に燃ゆる皆樣が、時局柄何かと御繁多にも拘りませず、斯くも多數御參會下さいました事を心から御禮申上げます。實は頭山滿先生、並に松井大將閣下にも御臨席を戴きまして、御激勵の御言葉を述べて戴くことになつて居つたのでございましたが、頭山先生には御風氣で且つ御老體でございます爲めに殘念ながら御臨席を仰ぐことが出來ませんのでございました。また松井大將閣下には、豫てボース氏とも非常に御昵懇の間柄でもあり、是非出席すると仰言つて居らつしやいましたのでございますが、急に御發熱で御靜養のため御臨席を願ふことが出來なかつたのでございます。

さて既に皆樣が御承知の通り、今や皇國は敵國米英の企圖謀略を悉く破碎し、遠くハワイの彼方より、西南太平洋並に印度洋を制壓し東印度並にビルマを戡定して、日章旗が燦として輝いてゐるのでございますが、更に進んで印度周邊に於ける英國の勢力圏を痛擊して、印度の宿敵、暴英の野望を徹底的に驅逐してゐるのでございます。これは實に輝く世紀の偉業であると共に。世界歷史の創造であるのは勿論、亞細亞十億の民族を解放して、之に希望と光明とを與へる一大聖業でございます。

而してこの赫々たる戰果を收め得ました事は、これ偏に大御稜威の然らしむる所でございまして、誠に恐懼感激に堪えない次第でございます。然しながらこの大東亞戰爭完遂の目的を達しまするには、日本國民は凡ゆる角度から奮鬪せねばならんのでございます。勿論武力戰は徹底的にやらねばなりません。最後にはロンドンで入城式、ニューヨーク沖の觀艦式をやるまで戰ひ拔かねばなりません。斯くせねば蛇の生殺しのやうになりまして、將來恐ろしいものが來ると覺悟せねばなりません。同時に、外交並に建設も創意を生かして劃期的にやらねばなりません。第一線將兵各位の御勞苦を日夜偲んでこの絕大なる戰果を意義あらしむるためには、前線銃後たるを問はず、全日本國民が、國民外交として、學者も、宗教家も、實業家も、教育家も皆一齊に奮ひ起つてもらひたいと思ひます。

由來日本には國民外交が缺けて居つたやうに考へます。人をして眞に信愛の念を起させ、且つ推服せしめるには、人格と人格が打突かつて行かねばなりません。かゝるが故に國民外交といふものは斯る大きな戰爭をして、有終の美を發揮せしめるために、最も大切なものであります。殊に三億七千萬といふ、世界に稀に見る人口を有する印度に對しましては、一層その感を深うするものでございます斯る理由の下に、印度獨立聯盟總裁ボー

ス氏並にその一連の志士を激勵する會を開くことは誠に有意義の事と存ずるのでございます。

凡そ日本人に世界中で一番信愛なる國民は何處にあるかと問へば、それは異口同音に印度であると誰しも言はない者はなからうと存じます。何となれば、印度には既に二千餘年の昔釋迦といふ大聖人を出しまして、この眼まぐるしい七面鳥の如く、刻々と變り行く世界狀勢の中にあつて、少しも訂正する必要のない根本道德を打ち建てたのは、この釋迦の教へであります。この釋迦の教、卽ち佛教が蒙古を通り、又一つには南支那の方を通りまして、百濟を經て、欽明天皇の御代に日本に渡來したのであります。その後、聖德太子を初め奉り、御代々の御皇室に於かせられましては、佛教を篤く保護し給ひまして、誠に恐れ多いことでございますが、明治大帝の御靈柩の御中には、佛教の經文を奉納されたとさへ漏れ承つて居るのでございますが、誠に畏き極みでございます。卽ち日本個有の神道は父の如く印度に於て始められて日本に渡來し日本精神に依つて醇化されました佛教は母の如き味のするものでございます。この崇高にして搖ぎなき教へに依つて斯くも忠烈にして仁義に篤い赤子が出來上つたのであらうと存じます。

さて、凡そ一つの目的を立てゝこれが貫徹を期することは、難事中の難事でございます、日本で最も根氣よくその目的を達せんとして苦心したのは、曾我兄弟の十八年目の本望がございます。然るに印度國民は武器を持たずして、五十年の長き歲月にわたり、あの大英帝國を向ふに廻して、戰ひ續けて來てゐるのであります。今夕御臨席なさいますボース氏は幼少の頃から、これが目的を貫徹せんとして印度に於て決死の働きを幾度も〳〵繰り返されました、その結果暴慢なる英國のために、遂に死刑の宣告まで受けられたとさへ聞き及んでゐるのでございます。

その後日本に亡命されてからでさへ、既に二十有七年の長き歳月にわたり、その宿望たる印度獨立の準備を續け來られたのでございますが、時恰も大東亞戰爭の結果大御稜威の然らしむる所として、既に印度洋並に印度の隣國ビルマまで皇軍が乘り込んでゐるのでございます。この皇風に乘つてボース氏は今回決死の覺悟を以つて起たれることになつたのでございます。この熱烈にして古今稀れなる憂國の志士を今日まで擁護したのは、日本國民の長所を遺憾なく發揮した現はれでございます。

而してこの度の蹶起に對しましては、日本一億の國民は、暴英數世紀の虐政の下に、貴き血潮を流しました印度四億の國民に對しまして、限りなき同情と激勵とを捧げねばなりません。斯くする事こそ日本男子の爲すべき業であり誇りであると信ずるのでございます

この激勵に對する一億國民の總意は、去る二月より帝國議會に於て東條總理大臣が、度々聲明されました如く、印度は印度人の印度となすべし、日本は印度の獨立に對して援助を惜しむものでない、と申されましたことは既に皆樣の御承知の通りでございます。續いて四月六日又々同樣の巨彈が全世界に發せられたのでございますが、その現はれとして、印度の東海岸に於て目下皇軍の一大作戰が展開されてゐるのでございます。

ボース氏の第一回の激勵會は去る三月二十日東京上野精養軒に於て開かれまして、その時は頭山滿翁並に陸海軍の諸將星、貴衆兩院議員、學界、實業家の諸名士數百名の發起により誠に盛大嚴肅に催されました。不肖私もその末席に列したのでございます。更に四月十五日には大阪で盛大な激勵會が催され、當縣においてこの度催されましたのが三回目でございます。

この滿堂溢るるばかりの皆樣の熱意ある激勵によつて、やがて印度獨立は實現し、暴英帝國は崩壞するので御座います。

斯くて八紘一宇の肇國の御理想に則り大東亞共榮圈は完全に確立し、東亞の諸民族は各其所を得て安居樂業し進んで世界新秩序の建設に邁進することが出來るので御座います。何れ印度獨立運動後援に關する具體的國民運動を提げて、皆樣にお目にかかる心組で御座いますが、その際は一層の御支援をお願ひ申上げたいと存じます。以上をもちまして私の開會の御挨拶と致します。

壯行の詩

二十七年學神洲。將準皇風建祖國
東西稀見熱血士。驕英擊攘如賭火

衆議員總選擧

四月三十日　衆議員總選擧が行はれた各候補の得票を番附によつて示せば左の如くである。（十兩は落選）

下部鑛泉に就て

甲州下部鑛泉（身延鐵道沿線）は信玄公隱し湯と稱し古來凡ての傷病に神秘的特效あり就中この鑛泉の治效顯著なる諸病疾を擧れば左の如し

一、外科的諸病（浴用）
外傷、骨折、打撲症、切開手術後、皮膚病、火傷、蛇蛟症（ノミ、蚊、南京蟲、犬毒蟲等ノ咬傷）神經痛、傴僂斯

一、內科的疾患（飲用）
慢性胃腸加答兒、胃潰瘍、胃癌、慢性腎臟炎、糖尿病、慢性子宮病、血壓亢進症、慢性脚氣、鉛毒、痰病等

取次販賣所
清水市仲濱町二七
電話七一九番

東之方	横綱 二四、九六二 八木元八	十兩 一六、九一七 平野光雄	
同	大關 二四、〇三三 深澤豐太郎	同 一〇、九三五 津倉龜作	
同	關脇 二三、二三二 太田正孝	同 七、三四七 清水行之助	
同	小結 一九、六四六 加藤弘造	同 四、一八二 朝比奈秀德	
同	前頭 一八、四四五 金子彦太郎	同 三、二九六 堤不二雄	
同	同 一四、八二二 坂下仙一郎	同 一、三五五 鈴木主計	
同	同 一三、二一四 勝又春一		

衆議院議員選擧得票番附

昭和十七年四月三十日執行　司行　靜岡縣

西之方	横綱 二四、五四〇 山口忠五郎	十兩 一〇、八五五 春名成章	
同	大關 二三、四二九 山田順策	同 九、四九八 倉元要一	
同	關脇 二〇、三六一 鈴木忠吉	同 六、五六七 村松道司	
同	小結 一九、四九九 森口淳三	同 五、六六九 勝田穗策	
同	前頭 一六、〇〇九 大村直	同 三、二〇二 結城源一	
同	同 一四、三七七 加藤七郎	同 二、七五九 鹽川正藏	
同		同 一、三二四 伊東茂雄	

警防團長會議

五月十六日　靜岡縣警防團長會議が清水市役所會議室で行はれた。

高等商船決定

五月二十三日　高等商船學校を清水市へ設置することに決定す。

國防理工科決定

五月二十九日　國防理工科大學設置決定。

縣購聯合併決定

六月十三日　縣購聯と縣信聯との合併決定し清水市日の出町の縣購聯事務所の大部分は靜岡市へ移轉す。

職業指導所落成

六月二十五日　新築中の清水市國民職業指導所は立派に完成し、落成式を擧行。

靜岡縣町村長會

六月二十七日　靜岡縣町村長會大會を清水商工會議所樓上に開く。

寺島遞信大臣視察

七月四日　西下中の寺島遞信大臣は歸京の途清水港に立寄り港灣の狀況を視察。

庵原地方事務所

七月十日　庵原地方事務所開所式擧行。

清水港灣運送創立

八月一日　大東亞戰爭の完遂と東亞共榮圈確立の帝國不動の國是に即應して清水港灣株式會社は資本金二百五十萬圓を以て成立。清水商工會議所に創立總會を開き厚東横濱海務局長から取締役社長に鈴木與平氏以下重役が任命

された。

清水商工議選擧

八月十日　清水商工會議所議員選擧は一級十日二級は十一日執行され開票の結果左記の如く當選した。

一　級

一〇八	稲名　徹	(新)
九七	岡田大三	(新)
八八	渡邊銀藏	(再)
八七	長島銀藏	(再)
七七	鹽次鉄雄	(新)
七〇	望月辰藏	(再)
六九	柴田準藏	(再)
六八	阪上政次郎	(再)
六六	長澤重兵衞	(再)
六一	中津川藤四郎	(再)
五七	遠藤市太郎	(再)
五六	入谷麟助	(再)
五〇	小野壽一郎	(再)
四八	金指丈吉	(再)
四七	天野九右衞門	(再)

二　級

八一五	竹内理吉	(新)
六七五	佐藤覺次郎	(前)
五七二	眞長兵衞	(新)
五〇八	鈴木平一郎	(新)
五〇三	小長井豐司	(新)
四六六	高田璋一	(新)
四六五	山本量平	(前)
四四四	櫻井康弘	(新)
四四三	望月平八郎	(新)
四三五	三保喜太郎	(新)
三七二	黑田德次郎	(前)
三六六	中村新太郎	(前)
三六〇	磯田長作	(前)
三四二	渡邊清吉	(前)

二七六	寺田喜代太	(前)

岸商工大臣視察

八月二十九日　岸商工大臣は戰時下重要工場たる三保日輕工場を詳細に亘り視察した。

三土忠藏氏來清

八月二十九日　樞密顧問官三土忠藏氏來清忠愛國民校講堂に於て貯蓄奬勵に關する講演を行ひ聽衆を感動せしめた。

產業課長會議

八月三十日　靜岡縣下各市產業課長會議が清水市役所に於て開催さる。

高等商船設立協議

九月五日　三保國民學校に於て清水高等商船學校設立準備協議會開催。

日本鋼管地鎭祭

九月三十日　日本鋼管株式會社清水船渠工場地鎭祭擧行。

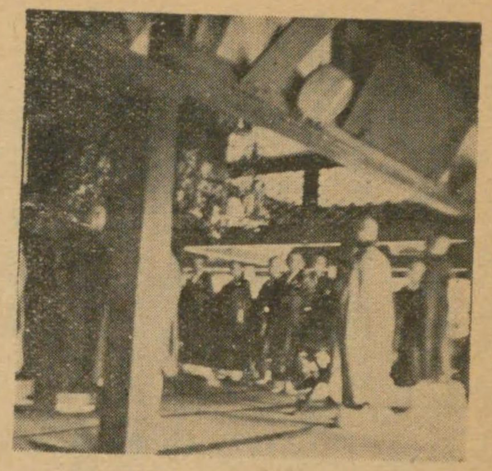
所得稅委員選擧

十月十日　清水所得稅調査委員選擧は定員六名に對し推薦六名、非推薦三名、計九名の候補が亂戰を演じたが同日開票の結果、長島銀藏杉山秀吉、池上清一郎の三氏が落選し大番狂はせであつた。

次郎長五十年忌

十月十二日　一世の仁俠を以て知られた清水次郎長こと山本長五郎翁の五十年忌法要は十二日菩提寺である清水市梅蔭寺で盛大に執行された。この日は特に翁と親交のあつた小笠原長生子爵、東京の梅津勘兵衞氏、浪界にあつて次郎長傳で賣り出した廣澤虎造さん、講談

の神田ろ山さんをはじめ東京、横濱、小田原高崎、甲府、水戸、福島、茨城、名古屋、大阪等より次郎長につながる縁の一家衆が來清地元の鈴木幸太郎、靜岡市の田中權吉、平尾政吉、清原の齋藤金平氏らが參列、中にも富士川町の田邊幸藏翁が老の身を馳せ參じ



【寫眞は次郎長法要の實況】

「親分の五十年忌に參列出來る等とは考へてゐなかつたが、わしもこの年まで生きて親分の墓前に線香をあげることが出來てこんな嬉しいことはないよ」

と喜びを語るなど盛儀にふさはしい光景を描き出した。五十年忌法要は午後一時からはじまり京都妙心寺派貫主德源寺住職古谷鳳洲禪師が導師となり田口梅蔭寺住職以下十數名の僧侶により讀經燒香は親戚總代の入谷麟助氏から始められ鈴木幸太郎氏に次で小笠原子爵一般參列者の順で進み午後二時法要を終り小笠原子爵は次郎長翁の墓前にぬかづいてしばし默禱をさゝげたが、香煙縷々と立ちこめる中に墓參者は夕刻までつゞいた。

國士としての次郎長

小笠原子の記念講演

私は不思議のご緣で次郎長翁と親交を結びましたが、五十有餘年前の當時から今日に思ひを致しましたとき一貫して渝らぬは日本魂で

あります、これを現したのが次郎長翁であります。翁は眞の俠客道に生きると共にまた一代の國士であつたのであります。

◇私は次郎長翁にいろ〳〵話を聞いたが、ある時翁は「自分はこれまで一度も寢ざめの惡かつたことはなかつた」と話されましたが、いつでも寢ざめのよいといふ人が幾人ありませうか、これだけを以てしても翁の人となりが判るのであります。又翁は私に三大教訓といふものを話したことがある。それは(一)部下に信任されたこと (二)時機を察してその機會を摑んだこと (三)時機を捉へると共に直ちに斷の一字に出たこと、これであります。今次の大東亞戰爭にも次郎長翁の三大教訓がわが將兵によつて發揮されてゐる。

◇更に翁の信念を聞いたことがある、その時に翁は「何事も考へたことはない、たゞ自分は人の前で人を叱つた事は一度もない」と語つた事があります。この言葉の通り次郎長翁は部下の信任が非常に篤かつた、部下の翁に對する尊敬の念は非常なものであつた、この信念は戰線にある將士に見る事ができるのであります。上官は部下を愛し部下は上官を親の如く敬ひ一致團結、其機會を失はず、やがて彼のハワイ、眞珠灣作戰の成功となつて現はれたのでありますこれを俠客道からいへばハワイ眞珠灣作戰は一種の毆り込みである。

◇次郎長翁が大俠客であることを知つてゐる人はあつても眞の國士であるといふ事を知つてゐる人は少い、翁が長脇差であつたことを知つてゐる人はあつても大優婆塞であつたことを知る人は少い、私は清水に來るとよく末廣に泊つた。斯樣なる營業をしてゐても次郎長翁は鳥とか魚とかいふものゝ最後を見るのがイヤだといつて板場を離れた生活をしてゐたのであります。また外出する時には菓子や果物を懷中がふくらむ程持つて出て、子供たちに會ふとニコ〳〵顏で與へてゐたのでありま

す。子供は次郎長翁に小父さん〳〵とすがりついて懐いてゐたのであります。

◇之を大にすれば國士、小にしては優しい小父さんであつたまことは翁は大優婆塞であつたのであります。

罐詰業統合成る

十月二十二日　靜岡縣下罐詰業者を打つて一丸とする靜岡縣罐詰株式會社の設立は農林省の指示によつて統合を進めてゐたが、この日縣當局から取締役社長植田朋八氏以下重役を指名してきた本社の資本金は三百萬圓參加工場四十ケ所である。

巴川開閉橋起工

十月三十日　清水港海陸連絡線巴川開閉橋起工地鎭祭擧行。名鐵鐵工株式會社の請負で工事に着手された。

清水市體育大會

十一月三日　恒例の清水市體育大會擧行、大東亞戰下各種の競技が熱心に展開された。

荒木大將來淸

十一月十三日　清水市忠愛校に開催された翼賛壯年團總會に臨席、馬上豐かに視閲を行ひ。終つて講演會に臨み烈々火の如き熱辨に團員一同誓つて聖戰完遂の決意を新にした。

警防團役員會

十一月十六日　清水市忠愛國民學校に於て縣下市町村警防團役員會を開き時局下重要案件に就て協議を行ふ。

望月氏繰上當選

十一月十六日　長島銀藏氏商議辭任に伴ひ望月貞作氏繰上當選確定

本書終刊に際し

若林生

昭和四年以降毎年末發行をつゞけて來た駿河年鑑は今回を以て終刊することゝ致しました。即ち大東亞戰下國防上の見地から掲載事項に殆んど制限を加へられ、年鑑本來の使命は全く骨抜きとなり僅かに職員錄の形骸を存するのみで自然今後の發行は無意味となつたからです。

防諜上の觀點と亦物資節約の上から國策に協力し以て有史以來の國難を戰ひ拔かねばならぬことは今更申上ぐるまでもないので終刊の主なる理由は主としてこの點に存するのであります。

顧みれば版を重ぬること十六輯（十六年）に及び永年本書のために貴重の資料を提供された官公署、學校、會社工場その他の當事者並に出版に多大の協力を寄せられた諸賢に對し玆に深甚の敬意を表する次第であります。尙ほ附錄として二十年後の清水港を掲載する計劃の下に八月以來各方面に亘り相當調査研究を進めましたが數字を列擧して前途をトし將來を豫斷することはその筋の注意により見合せ、同時に重要國策工場の位置、資本金、電話番號等もこの際削除しましたから何卒御諒承を御願ひしておきます。

皇軍の將士にもまた六度目の酷寒が訪れんとして居ります。玆に御健在を御祈りいたしまして終刊の辭と致します

昭和十七年十二月五日印刷
昭和十七年十二月十五日發行
【定價金貳圓】

編輯兼發行者　清水市仲濱町二七　代表　若林今朝一
印刷所　清水市島崎町四九　神谷印刷所

發行所　清水市仲濱町二七番地　みなと出版社　電話七一九番

資本金三百萬圓

本社 清水市入江町三四六

株式會社 巴川製紙所

社長 井上源之亟

常務 井上篤

工場

清用宗工場

東京事務所

清水工場

日本

清水市入江

電話六六六・六九八番

東京

電話京橋五五三・五〇五二番

宗用

靜岡市宗用

電話〔代表靜岡三二〇九番 宗用一〇〇番〕

本社　東京市小石川區小石川町一

日本發送電株式會社

清水火力建設所

清水市三保貝島

電話清水一四〇番

清水發電所

電話一三五九番

會社料金　円

本社　清水市

資本金三百萬

株式會社

竹中工務店靜岡出張所

電話一二四三番

本店　大阪市北區中ノ島三ノ三

支店　東京・名古屋・神戸・京都・福岡・天津・上海・北京

出張所　青島・京城・漢口・横濱

製作所　東京

清水市末廣町六

株式會社　滿洲竹中工務店

本社奉天市大和區朝日街

新京支社・牡丹江出張所

株式會社　竹中製作所

大阪市港區南境川町三ノ八六

清水市外澁川（鶴舞橋際）

富士造機株式會社清水工場

電話一二七六番
三五六六番

清水市村松

保證責任 不二見信用販賣購買利用組合

電話六四五番

靜岡市江川町

靜岡縣信用販賣購買利用組合聯合會

電話代表四〇四〇番

清水市信用組合

清水市相生町　電話（四四〇番　四七七番）
清水事務所　電話五六七番
魚町事務所　電話二三六番
三保事務所　電話三保七九番
清水驛前事務所　電話一三二番
大曲事務所　電話一三七三番

港運輸株式會社

清水市壽町一丁目五八番地
電話（九五番　八二一番）

土木建築請負

合資會社　三大工業社

代表社員　古郡久作

清水市入船町
電話（五七七番　三七〇番）

セメント・陶器
建築材料一式
一手販賣

清水市萬世町八千代橋際
柴田セメント店
店主 柴田準藏
私書函清水局十九番
電話 六十一・六十二番
振替口座東京八六八〇四番

沼津市
株式會社 駿河銀行
清水驛前支店
清水驛前
電話 一一七〇番
一一八六番
清水支店
清水港町
電話 八三八番
清水入江支店
入江町
電話 二三五番

本店 神戸市神戸區榮町通三丁目
山下汽船株式會社
土木製造請負業
支店 東京、名古屋、大阪、九州門司、若松、八幡、小樽、大連、青島、上海、馬尼剌、倫敦、シドニー、新西蘭、シャトル、坡蘭土、晩香坡
出張所

取締役會長 金子喜代太
專務取締役 藤尾仙次
本 宮久吉
清水市築地四丁目二八五〇
本社 清水工場
大阪石綿工業株式會社
大阪市東淀川區中津濱通三丁目五〇
清水市駒越
電話 一〇二二・一二一〇・一二一八番

清水市築地町二ノ五〇

清水製藥株式會社

取締役社長 植田朋八

土木建築請負業

青木組

青木理吉

本店 清水市入江二八二三
電話 一六二番

南洋材
北海道産樹
内地
潤葉
專問

清水市萬世橋際

北川雜木製材所

電話 六八三番

清水市土木建築請負同業組合

組合長 櫻井康弘

清水市入江一、三二七
電話 八八四番

清水市三保貝島

株式會社

間組清水出張所

電話（三保）三五番

日本罐詰統制株式會社

東京市日本橋區吳服橋一丁目一ノ五（國分ビル内）

三井物産船舶部
ロイド・トリエスチノ
淺野信治商店
代理店

株式會社
天野回漕店
清水市日之出町一ノ三六
電話一二八五番

清水市富士見町二ノ一三
清水水産株式會社
電話 二六二番
三二二番

清水市入船町三ノ四
日本通運保證加盟店
清進運送株式會社
電話九四二番
取締役社長 望月源太郎

清水瓦
清水瓦製造問屋
原臺吉商店
清水市元魚町
電話五八一番

靜岡縣清水港
合資會社
井出商會
代表社員 井出一朗
電話 九三六・九三九番
自宅 四二五番

靜岡縣瓦工事業組合

清水市巴町一〇四
電話六九一番

理事長 杉山德次郎
常務理事 兼 岩元城

清水市巴町一〇四

渡邊金左衛門商店

杉山德次郎
電話六九一番

合板輸出貿易商業
合板製作

阪政商店

店主 阪上政次郎

清水市島崎町
電話 営業用 三八二番
自宅 三八三番

清水食品株式會社

清水市築地町二ノ二二

電話 一九一七番
一六五〇番
五四五番

清水市日之出町
清豆回漕店
細川鐵之助
電話一〇九番

産科
婦人科
田口醫院
清水市眞砂町
電話二三七番

三菱鑛業株式會社
清水出張員事務所
清水市島崎町
電話五四番

清水驛前
やすい軒
電話一、〇一〇番
清水市相生町
やすい軒會議所食堂
電話(呼)一〇八〇番

特許 田中式帶鋸製材機械
特許 田中式木工機械
専賣
専門製作
田中機械製作所
田中明
清水市萬世町二ノ一
電話(代表)七一〇番

營業品目 鞍山 輪西 兼二浦

銑鐵清水港扱店

直營製作工場島崎（大踏切際）
電話一三五七番

齋藤彦左衛門商店

清水市江尻町 電話六三番

製作品目
シャービング マシン
オートマチックビズトンリングマシン
ミーリングマシンラジヤル、ボール盤
最新式アヂアレンチ
旋盤●シカル盤●ホッピングマシン

乾海苔・柑橘問屋

櫻田與市商店

靜岡縣清水市幸町
電話清水 一四一七番 一一〇四一番
振替東京二二〇六六番

播磨造船直營比律賓島ボルネオ產
日露木材株式會社日滿支一手特約
南洋材縣下一手販賣

內外木材直移輸入專業

望月貞策商店木材部

清水市本町三一五
振替口座東京三六四一九番
電話 營業所清水特長五番 自宅清水長七二七番

▼陸海軍御用▲

酒

ハ

▼名譽賞受領▲

東洋釀造株式會社

清水港木材株式會社

資本金百萬圓

清水市富士見町一ノ九（木材ビル）

電話 一三四番 一三九二番 一三九六番

取締役社長 福島庄太郎

清水市新港町二丁目

豐年製油株式會社清水工場

電話（六〇〇四番 六〇〇五番 六〇〇六番）

資本金百萬圓

清水市新港町五番地ノ五

清水運送株式會社

電話 七四二番・七四三番・九七三番
清水驛支店 埠頭驛支店 電話自一六四番至一六六番

清水市清開一三九

伊藤鐵工所

電話（代表 一三六〇番 一三六一番 一三六二番）

日之出汽船株式會社代理店

丸吉回漕店

天野吉藏

清水市入船町
電話（一〇八七番 一三九三番）

嶄新優美の
下駄製造業

株式會社 清水塗裝工業所

清水市入江町一
電話三三三番

次郎長彫
白木加工品 下駄

日化テツクス製造

日本化學製板株式會社

清水市入江町三丁目
電話清水九九三番
電略（ニホン）又ハ（ニ）

陸海軍御指定
百パーセント
ラッカー
製造元

靜岡縣清水市入江
長島化學製品所
電話長八七〇番・一七三番
大阪支店 大阪市東淀川區十三東之町
電話（北）四五七五番
東京出張所 東京市芝區濱松町一丁目一五
電話（芝）二二五九番

清水市三保貝島
株式會社 金指造船所
電話清水 一四三番 三四〇番 五三一
清水出張所 電話 一三八三番

株式會社 靜岡三十五銀行
清水市富士見町 清水支店 電話三五・五四二・五四三番
清水市江尻 江尻支店 電話五六・一三五・一五一番
清水市志茂町 志茂町支店 電話 三〇七番

清水市仲濱町四
株式會社 駿州銀行
電話 一七二番 五〇二番 七一七番

船舶發動機
諸機械鑄造
並製作
清水市築地町二丁目五七
合資會社 清水鑄造所
代表社員 遠藤市太郎
電話八六九番

輸移出罐詰類
其他輸出品包裝業
清水市港町三丁目
日本輸出品包裝株式會社
電話三六六番

合資會社 眞田商店
清水市江尻三六〇
電話 一五二六番 一〇〇八番

清水市入船町一丁目
食料品雜貨商
長小野壽一郎商店
電話 二九五番 七七〇番

雜纖維精錬加工業
清水特殊纖維工業所
營業所 清水市入船町一丁目
工場 清水市台町

清水市日之出町一ノ二
日清運輸有限會社
電話 二九九番 一九四六番 一八八番

清水市萬世町二ノ二
電話 四八九・四九七番
第一タクシー株式會社
清水驛前營業所
電話五三一番

営業科目

倉庫業

海陸運送取扱業

清

清水倉庫株式會社

清水市日之出町一ノ二

取締役社長 中村圓一郎

電話 九四六番 二九九番 七五六番

静岡市吳服町一ノ一〇

株式會社 静岡三十五銀行

電話代表三五〇〇番

日本銀行代理店

静岡縣本金庫

静岡縣清水市有度村北脇五〇〇番地

綾羽クツシタ株式會社

電話清水 五九一番 一〇四一番

本社 静岡縣濱名郡中野町 電話一〇・一二八番

支店 清水市上清水 電話六〇一・六〇二番

天龍製材株式會社

取締役社長 中村藤太郎

出張所 山梨縣鹽山町 電話六四番

同 長野縣川上村 電話二三番

清水市相生町六三

合資會社 小澤材木店

電話一〇一七番

清水市港町三ノ四

三井物産株式會社

清水出張員

電話 六二五番 六二六番 五一九番

株式會社 **三保造船所**

清水市三保

電話三保 五九番 四一番

清水市清水二七四ノ六

株式會社 **清水組出張員詰所**

百々惠作

電話 一〇〇番 一、〇六八番

靜岡縣土木建築

工業組合清水支部

清水市入江町一三二七

電話 八四八番

清水市築地町三ノ六三

清水港造船株式會社

電話 一〇七三番

取締役社長 森田森作

大島組

土木 建築 請負業

清水市松原町三丁目一七

電話 一、一二二番

谷寅吉

靜岡縣煉炭工業組合

靜岡縣煉炭卸商業組合

清水市萬世町二

製紙用 鑛山用 罐詰工場用 化學工業用 各工場用

金網

銅・鎮鍮・ブロンズ・亞鉛・ブリック・鉛引

製造元

長澤金網工場

清水市上清水一六八

電話八一・四三八・九六四四番

清水市港町三丁目三〇番地

靜岡船用品配給株式會社

電話 一一〇六番
一四八八番
八五七番

諸官署
公認 市内唯一衛生機關

株式會社 清水衛生舍

常務取締役 長谷川市郎

清水市相生町七十七番地
電話 七一五番

清水警察署管内

自家用貨物自動車組合

組合長 長谷川市郎

事務所 清水市相生町七十七番地
電話 七一五番

保證責任 不二見信用販賣購買利用組合

清水市村松一〇九七

電話六四五番

▲下清水出張所 清水市下清水三六八

▲駒越出張所 清水市駒越一、二四二ノ一 電話一、〇〇四番

株式會社 東洋機械製作所

清水市東町二ノ四六

電話九七〇・一、三三四・一、四六〇番

取締役社長 榛葉春吉

第一産業合資會社

清水市港町二ノ六八

電話 一三六三番
一三六三四番

社會資合

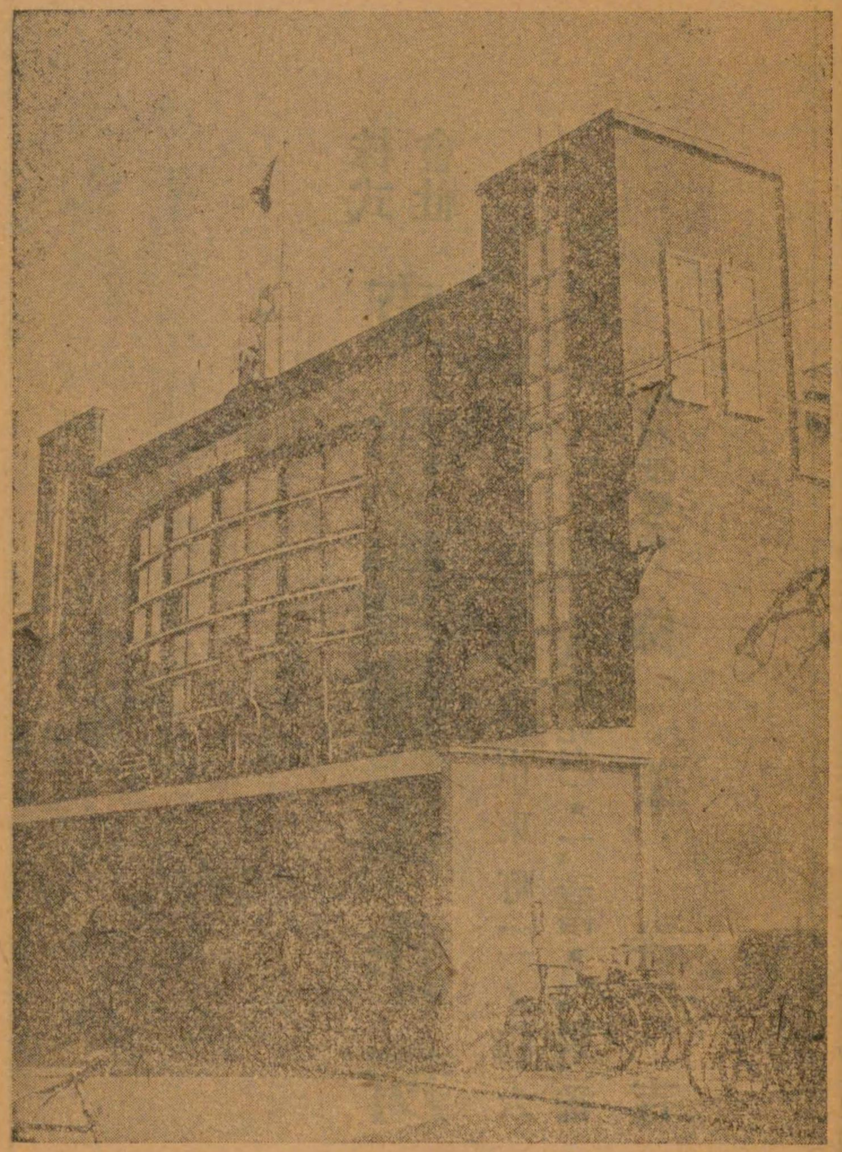
清水青果乾物市場

清水市入江二六四五

電話 一〇〇六番

代表社員 鈴木平一郎

＊健全な映畫＊設備理想的＊



銀座映

清水市萬世町 電話一三五番

資本金貳百五拾萬圓

清水港灣運送株式會社

取締役社長　鈴木與平

清水市港町三ノ七四

電話〔二四四・五五一・五二八・七九四番
七九五・一、四一七・一、〇五九番〕

和洋紙
板紙
紙製品
雜貨輸出
紙紐・紙袋
製造

丸二商會

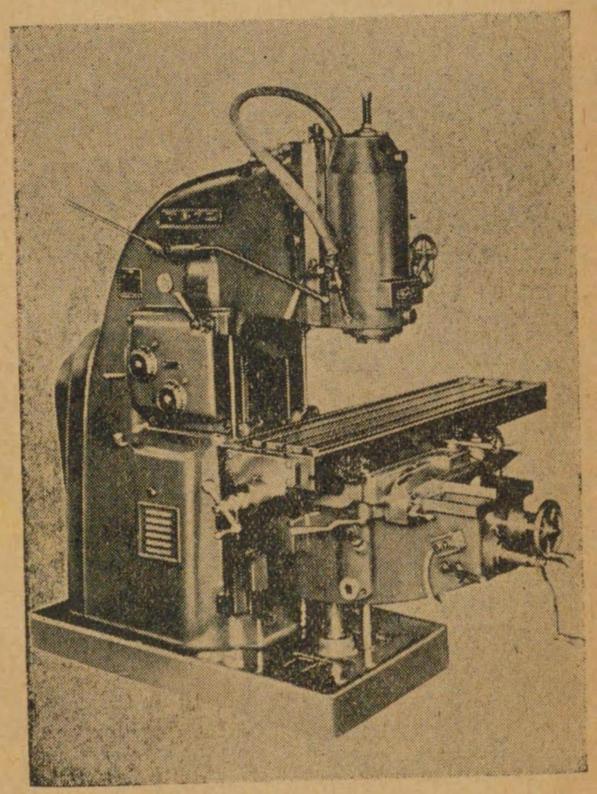
清水市旭町二五

電話　一、二六八番

自動ダイヤル式

竪軸型No.3強力フライス盤

電動機直結



株式會社 マルクニ鐵工所

本　社　静岡市森下町二ノ一　電話静岡(代表)1123番

草薙工場　静岡縣安倍郡草薙驛前　電話静岡(代表)168番

印刷中異動並に正誤訂正

◈回漕欄中の有限會社鹽山商會は鹽山汽船株式會社に組織を變更す

◈株式會社東洋機械製作所專務取締役榛葉春吉氏は同社取締役社長に訂正

◈昭和十七年度行事中の印度獨立激勵會文中株式會社取締役社長田中清一氏は株式會社富士製作所取締役社長田中清一氏の誤り

◈清水警察署人事中へ巡査大川博務氏（特高）を加ふ

◈静岡地區機帆船組合電話六三六番は電話一三九一番に改正

◈清水警察署（特高）勳八安本幸平氏は勳七に訂正